

日本消防



- 消防育英会定時理事会を開催
- 第30回全国消防操法大会第1回審査員研修会を開催

□ 絵 消防育英会定時理事会を開催
第30回全国消防操法大会 第1回審査員研修会を開催

巻頭言 「地域のことは地域で守る」の気概を持って……………	(公財)兵庫県消防協会 会長 安満 真哉 ……	1
消防育英会定時理事会を開催……………	(公財)消防育英会 ……	3
日消の動き 「おはよう！ニッポン全国消防団」、もう18年……………	(公財)日本消防協会 会長 秋本 敏文 ……	4
特別表彰「まとい」を受賞して 「CIVIC PRIDE ～自分たちの街への愛着と誇り～」 ……………	市川市消防団 団長 岡本 宜幸 ……	5
東西南北 (東京都) 「地域の防災リーダーを目指して」……………	小石川消防団 団長 高柳 博一 ……	7
東西南北 (滋賀県) 「小規模を活かした地域密着の消防団を目指して」 ……………	多賀町消防団 団長 滝川 徹人 ……	9
東西南北 (福岡県) 「新たな時代の消防団を目指して」……………	直方市消防団 団長 鬼武 雅仁 ……	11
シンフォニー (長崎県) 「手を繋ぎ 気張っていきましょう」……………	諫早市消防団 部長 鬼塚 由美 ……	13
消防団加入促進への取組み 滝沢市消防団のPR活動について……………	岩手県 滝沢市消防団 ……	15
消防団加入促進への取組み 持続可能な消防団組織を目指して……………	愛媛県 (公財)愛媛県消防協会 ……	17
第30回全国消防操法大会審査員研修会を開催……………	(公財)日本消防協会 業務部 ……	19
第24回ヨーロッパ青少年消防オリンピックへの派遣について……………	(公財)日本消防協会 国際部 ……	21
ODAを活用したブータン王国消防技術援助について(報告)……………	(公財)日本消防協会 国際部 ……	23
令和6年春の叙勲・褒章受章者を発表……………	総務省消防庁 ……	26
風水害に対する備え……………	総務省消防庁 防災課 ……	42
地震に対する日常の備え……………	総務省消防庁 防災課 ……	43
熱中症の予防についてのお知らせ……………	総務省消防庁 救急企画室 ……	44
うちの名物団員……………	群馬県、東京都、福岡県、長崎県 ……	45
消防団の広場(群馬県) 「消防団に入団して人生が広がりました」…	邑楽消防団 団員 板橋 真太郎 ……	47

編集後記

表紙写真説明

「万灯祭」(滋賀県多賀町)

滋賀県多賀町にある多賀大社のお祭り。湖国の夏の風物詩として有名です。1万灯を超える提灯に明かりがともされます。

写真提供者：多賀町

消防育英会定時理事会を開催

令和6年5月28日(火) ヤクルト本社ビル6階大会議室



第30回全国消防操法大会 第1回審査員研修会を開催

令和6年5月29日(水)～5月31日(金) 宮城県消防学校



「地域のことは地域で守る」の 気概を持って

(公財)兵庫県消防協会 会長 安満 真哉



1. 兵庫県の紹介

当県は、日本のほぼ中心に位置し、北は日本海、南は瀬戸内海から淡路島を介して太平洋へと続き、中国山地が県土を横断しています。気候は降水量が少なく温暖で過ごし易い瀬戸内海側、曇雨が多く冬季はシベリアの季節風を受けて降雪量が多い日本海側と変化に富んでおり、産業面においても、神戸・阪神・播磨地域は、県の人口の90%強を占め、鉄鋼、造船、機械などの産業が集積する一方、但馬・丹波・淡路地域は、美しい山々、海、川など、豊かな自然に囲まれた農林水産業の盛んな地域です。

このように美しい自然や多様な風土に恵まれ、大都市から農山村、離島まで様々な地域で構成されていることから兵庫県は「日本の縮図」ともいわれており、歴史や風土、産業などの違いから、摂津(神戸・阪神)、播磨、但馬、丹波、淡路の個性豊かな5つの地域に分けることができます。

2. 当協会の概要

多様な風土を持つ当県ですが、全ての市町に消防団があり合計62団、全国最多の4万人近い消防団員が昼夜を分かたず地域の安全と安心のために、献身的な活動に努めています。

兵庫県消防協会は、財団法人として、昭和23年に設立され、法改正に伴い平成25年4月に改めて公益財団法人として認可されスタートしております。

平成7年、兵庫県は6,400人を超える尊い命が犠牲となった「阪神・淡路大震災」を経験しました。当時全国から多くの支援をいただ

き互いに助け合うことの大切さを学んだ経験から、本年元日に発生した能登半島地震に際しては被災された方々へ協会としても義援金を募り、県を通じて支援させていただきました。

阪神・淡路大震災から本年度30年の節目を迎えるにあたり過去の大災害の経験と教訓を「忘れない」「伝える」「活かす」「備える」そして「繋ぐ」と、世代・地域を超え広く継承、共有していく責務を強く感じております。

3. 当協会の事業

当協会の事業としては、防火思想普及事業・消防団組織強化対策事業・教育訓練事業・消防団活性化支援事業・操法大会事業・消防功労者等表彰事業・福利厚生事業他、数々の事業を行っておりますが、当県におきましても消防団員数は年々減少しており、団員確保は大きな課題であります。

それぞれの市町の実情に合わせ、工夫を凝らしながら、消防団員の確保に各団取り組んでおりますが、協会としても昨年度、将来の地域の安全・安心を担う若人の防災意識の高揚を図ることを目的とし、地元の大学の協力も得て「兵庫県少年少女消防クラブ交流大会」を県内の少年少女消防クラブ員約100名にお集まりいただき、消防活動を踏まえた競技や交流会を開催致しました。

また中学生を対象に、消防団に対する理解を深めていただくためにチラシ及びクリアフォルダーを作成し配布する事業を長年続けており、昨年度も県内中学2年生47,000人に配布致しました。

女性消防団員の活躍の場が増えるなか、講

演や技術研修、活動事例の発表等を内容とした研修会や活性化大会を精力的に開催し、女性消防団員の資質・能力の向上、団員間の情報交換・交流の促進など図っております。会場では、更なる女性消防団員の確保に向けた発言など、活発な意見交換もなされています。

消防操法については、全国消防操法大会において、平成22年の小型ポンプの部での優勝のほか、ポンプ車の部も含めて、過去には準優勝などの優秀な成績を何度も残しております。団員確保のために今後は団員への負担軽減なども検討の視野にいれつつ、現場活動における「安全・確実」の基本動作を身につけ、団の結束力を高めるのに重要な活動として引き続き取り組んで参ります。

4. 終わりに

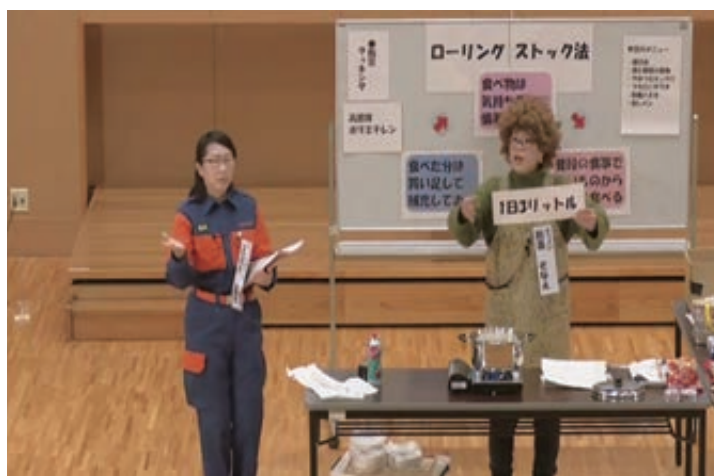
若手団員に消防団員になって良かったことを尋ねると、多くの方が、地域の方と知り合えたことや、地域の方に「ありがとう、ご苦労さん」と言われた時に喜びや、誇りを感じると語ります。

地域防災の中核として地域の安全確保に重要な役割を担う消防団ですが、逆に消防団員個々は地域の皆さんに支えられ、地域の皆さんとの繋がりのなかで生き、生かされていると先程の若手の感想を聞くと感じられずにはいられません。

近年、自然災害が激甚化・頻発しておりこれまでに経験したことのない新たな課題への対応が求められる中、常備消防(消防本部)、非常備消防(消防団)、地域(自主防災組織等)で自分たちのまちを自分たちでどのようにして守るのか。その中で消防団はどのような役割を担って、そのために何をしなければならないか。考えること、なすべきことは山積しております。

「地域防災力の充実強化」は、災害や社会経済情勢、時代の流れによって、終わることのない課題であり、ますます複雑化してきていると思います。「地域のことは地域で守る」を気概に持ち、住民から愛され親しまれ、地域防災の中核として頼りにされるためには、訓練・研修を重ね、日々研鑽しなければなりません。幸いにして兵庫県には、進取の気性に富み故郷を愛する団員が大勢おり、それらに応えてくれるものと確信しております。

地元の消防団、県内の消防団、さらには全国の消防団員が一体となって災害に立ち向かう、消防の仲間であり消防の家族である、厳しいことも多いが、楽しいこともある、団員の皆さんが消防団に入ってよかったと言える消防団を目指していく所存でございますので、皆様方のご支援ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



令和6年度 兵庫県女性消防団員活性化研修会
活動事例発表「防災クッキング講座」

消防育英会定時理事会を開催

(公財)消防育英会

令和6年5月28日(火)、ヤクルト本社ビル6階大会議室で「令和6年度消防育英会定時理事会」が開催されました。

1 議 事

- 第1号議案 令和5年度事業報告案及び決算案について(監査報告)
- 第2号議案 定時評議員会の招集について
- 第3号議案 令和6年度(公財)JKA補助事業の補助金交付受諾について
- 第4号議案 主たる事務所の移転について

2 報告事項

- (1) 消防育英会奨学生及び奨学金等の状況について
- (2) 消防育英会支援自動販売機の設置状況について
- (3) 令和6年度消防育英会奨学生懇談会実施について

議事については、異議なく承認されました。



競輪補助事業完了のお知らせ

この度、令和5年度競輪の補助金を受けて、下記の事業を完了いたしました。

- 1 事業名 令和5年度警察・消防活動に協力中の事故被害者に対する支援活動補助事業
- 2 事業内容 消防団員、消防職員等の殉職者遺児に対する奨学金の支給
- 3 補助金額 22,968,000円
- 4 実施場所 東京都港区東新橋1丁目1-19
- 5 完了年月日 令和6年2月2日



「おはよう! ニッポン全国消防団」、もう18年

(公助)日本消防協会 会長 秋本敏文

毎週、全国30局ネットで放送しているラジオ番組「おはよう! ニッポン全国消防団」は、放送開始以来もう18年にもなりました。平成17年、菅原文太さんにご相談やらお願いやらしたことからスタートして頂いた消防応援団の皆さんに、何かやっていただきたいなと思って菅原さんご夫婦にご相談した時、奥様からラジオ放送のご提案を頂き、なる程と思って、いろいろな方にご相談した時から、このラジオ放送はスタートしました。関係の団体の方々にはスポンサーになって頂くなどして、やっとスタートしたのですが、あれから18年です。皆さん、いかがですか。

本当に多くの方々にお世話になっていますが、ご出演頂いた消防団の皆さんにとって忘れられない思い出は、話を聞いて下さった消防応援団の方々との対話でしょうね。応援団の皆さんには、いろいろなお縁をたどりながらご出演をお願いするのですが、ご多忙のなかをご出演下さり、消防団の皆さんのお話をお聞き頂き、「これからもがんばって下さいね」と激励して下さいます。本当にありがたいですね。

18年つづけている間に、世の中もいろいろ変わっているのですが、このラジオ放送にも少しずつ変化がみられます。出演して頂く消防団員の方々については、全国各地のバランスに注意しながら、各都道府県消防協会にご推薦頂くことを基本にしていますが、そのなかで、傾向としては、近年、女性団員のご出演が増えているようです。やっぱり女性団員の増加、女性団員の活動に対する注目の高まりがあるのでしょうか。そして、話題になることのなかで、これは特に近年そうなのですが、団員の皆さんからのお話のなかで、団員確保、入団促進へのお話が増えています。それぞれの団にとって大きな課題と意識されているのだなあと感じさせられます。

このラジオ放送は、消防団の皆さんへの激励メッセージとして活かすと同時に、一般の方々に消防団の活動内容やその存在の重要性をもっとよく知って頂く貴重な機会にもしたいと思って始めたのですが、まさに願っていたものになっていると思います。そのように思いますと、ちょっと欲張りなのですが、もう少し対話部分の時間を延長して、お話合いの内容を増やし、もっと皆さんに楽しんで頂き、もっと一般の皆さんに消防団のPRをしたいなあとという思いがでできます。もっといいですと、このラジオ放送の音だけでなく、映像をテレビやSNSで広くお伝えする、その内容は、消防団のことは勿論、さらに地域コミュニティの皆さんのご活動、そのなかで消防団の活動も含めた地域全体の情報提供の報道番組にすることもあるのではないかなあと思ったりします。テレビはお金がかかりますから簡単ではないでしょうが、何とかならないかなあと思ったりします。



1 はじめに

この度、市川市消防団が、第76回日本消防協会定例表彰式におきまして消防団として最も榮譽ある特別表彰「まとい」を受賞いたしました。この表彰を受賞できたことは、この上ない喜びであり、今後の消防団活動のより一層の励みとなりました。

本受賞は、これまで市川消防団を築いてこられた諸先輩方や現団員の功績が認められたこと、また、消防関係者の皆様方や団員の家族、そして地域の皆様方のご理解とご協力あつての受賞であり、心から感謝を申し上げます。

2 市川市の紹介

市川市は、千葉県北西部に位置し、東西に狭く南北に長い地形をしている都市です。人口は約49万人、面積は56.39平方キロメートル。北は松戸市、南は浦安市及び東京湾に、東は船橋市及び鎌ヶ谷市に接し、西は江戸川を隔てて東京都江戸川区・葛飾区と相対し、都心部と県内各地域を結ぶ広域交通網の集中する位置にあります。都心から20キロメートル圏内にあり、首都圏のベッドタウンとして発展しながらも、東部には都市開発により高層住宅が建設され、西部は、万葉集で歌われた伝説の美女「真間の手児奈」にまつわる地として有名で、北部は市町村別産出額がトップクラ

スの梨の一大産地として市川市が誇るブランド梨「市川のなし」の生産が行われています。

南部の行徳地域では、昔からの伝統の神輿文化があり、全国で有数な神輿発祥の地として知られ、自然、歴史、文化が融合した街となっています。

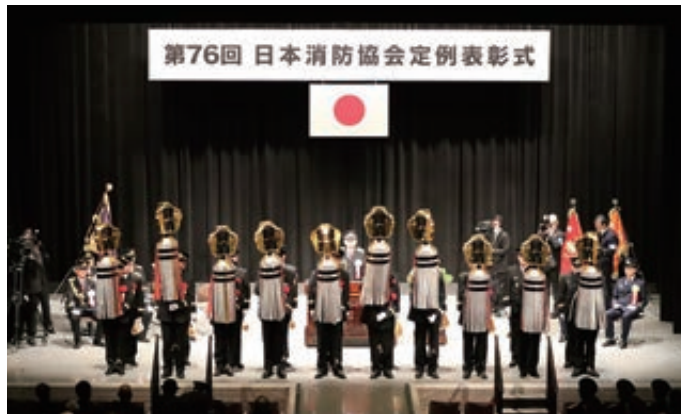
3 市川市消防団の紹介

市川市消防団は1947年（昭和22年）5月10日、消防団令公布・施行により組織されました。その後、組織の再編・充実強化等の変遷を経て、2024年（令和6年）4月1日現在、1本部・4方面隊・23分団の組織により、消防団員322名（うち女性消防団員19名）が活動しています。

本市消防団は市内を東西南北に分けた各地域を方面隊として管轄しており、地域に密着しながら、安全安心を担う崇高な使命のもと日夜活動しています。

4 市川市消防団の活動

本市消防団は、火災等の出動、台風や豪雨時における巡回や水防活動、毎月実施している定期訓練、防火防犯パトロールはもとより、年間の消防団運営計画に基づき消防出初式、総合防災訓練、救命講習普及員活動、歳末特別警戒パトロール等の多岐にわたり積極的な活動に取り組んでおります。



第76回日本消防協会定例表彰式

また、個々の団員教育に関しては、千葉県消防学校（警防科、機関科、女性消防団員科など）への入校、各消防署所における教養訓練により、様々な知識を習得しスキルアップに努めています。

入団促進の一環としては、自分たちの住む街・働く街・学ぶ街への愛着と誇りが込められているキャッチフレーズ「CIVIC PRIDE ～自分たちの街への愛着と誇り～」を策定しました。このキャッチフレーズが浸透することで、消防団とキャッチフレーズが結びつき、広報の持続的な展開ができると期待しています。

さらに令和4年度には第29回全国消防操法大会「ポンプ車の部」に出場し、準優勝という功績を収めることができ、全国的にも市川市消防団の認知度向上に努めることができました。

また、本市消防団は女性消防団員も所属し

ており、女性消防団員自らが作成した防災に関する紙芝居を、市内小学校から依頼を受け防災教育として読み聞かせや、地域イベント等で披露するなどの啓発活動も行っています。

5 おわりに

近い将来想定外の災害が発生した時、消防団の活動が必要となることが予想される中、市川市消防団は本受賞を今後の消防団活動の励みとし、より一層の研鑽を重ね、精進して参りたいと存じます。

結びに特別表彰「まとい」の受賞にあたり、格別のご配慮をいただきました日本消防協会をはじめ、千葉県消防協会ならびに、市川市消防団を支えていただいている皆様に厚く御礼申し上げます。



第29回全国消防操法大会



女性消防団員による防災教育（紙芝居）



「地域の防災リーダーを 目指して」



小石川消防団 団長 高柳 博一

1 文京区の紹介

文京区は、東京23区のほぼ中心に位置しています。小石川消防団の管轄区域内には、東京ドームがあり、野球観戦や国際的なコンサートやイベントなどが多数行われる等賑やかな反面、護国寺など、由緒ある神社・仏閣・歴史ある建造物も数多く、都心にありながら、緑が多く、小石川植物園等貴重な緑地を現在に残しています。地形は意外にも坂が多く、江戸川・千川地区につくられた低地の部分と関口台・小日向台・小石川台・白山台という台地で構成されています。

また、日本有数の文教地区とも知られており、明治以降は、多くの教育機関が設立されました。

2 小石川消防団の概要

小石川消防団は、昭和22年11月26日分団数4、団員301名で設立され、昭和24年7月16日、特別区消防団設置に関する規則が交付され、分団数4、団員200名で運用を開始、現在は団本部1、分団数6、団員数181名（定数200名）で、活動しています。消防車両等の装備は、可搬ポンプ積載車3台、可搬ポンプ8機を配備し活動を行っています。その他の資器材とし

て、各分団に、消火用ホースをはじめ、救助救急活動に使用する資器材や、AED、モバイルパソコン等を配備しています。

3 消防団の充実強化を図る制度

東京消防庁には、特別区学生消防団活動認証制度・特別区の消防団協力事業所表示制度・機能別団員制度・大規模災害団員制度等があります。小石川消防団では、特に特別区の消防団協力事業所表示制度を活用し充実強化を図っています。この制度は、消防団に社員が入団しているなど、積極的に消防団に協力している事業所等に対し、「消防団協力事業所表示証」を交付するものです。表示証は、地域の防災に貢献している事業所の証しとして掲示でき、ホームページなどで広く公表することができるものです。

4 消防団の活動状況

小石川消防団では、大きな行事として消防団始式、文化財防火デーに伴う消防演習、消防団操法大会、文京区消防団合同点検、第五消防方面・文京区合同総合水防訓練・消防団救助大会をはじめ、各種防災訓練や応急救護訓練を実施しています。

特に今年度は、第51回東京都消防操法大会に出場し、第3位に入賞しました。小石川消防団は、悲願の優勝を目指し、経験豊富な選手に都大会初出場となる20代の若手団員を据え、団を挙げての支援態勢を組み大会に臨み、チーム結成以来、最速のタイムを記録するなど、訓練の成果を遺憾なく発揮することができました。



第51回東京都消防操法大会

また、操法大会の訓練だけではなく、実動に即した消火活動訓練を実施しました。渋谷区西原にある東京消防庁消防学校にて、建物火災消火訓練施設（AFT）を活用した放水や、耐火訓練棟を活用した高層建物への放水訓練等を行いました。AFT訓練では、出火後、天井付近があったという間に800℃を超える様子を目の当たりにし、実火災の危険性を実感しました。この訓練において、防火装備の重要性を実感するなど、有意義な訓練となりました。



AFT訓練

5 おわりに

私たちが住む日本を襲う災害は、年々、社会環境の変化などに伴って、多様化、複雑化の傾向にあり、台風の規模、風速・雨量については、毎年のように戦後最大の記録が更新される状況です。加えて首都圏直下の地震発生が心配されている中で、地域に最も身近な防災機関である「消防団」の活動は、ますます重要になっています。私たち消防団員は、仕事を持ちながら「わがまちを災害から守る」という使命感のもと、日々幅広い活動を行っています。

特に、消防機関・各行政機関と連携した訓練をはじめ、地域住民とふれあいを大切にした活動は、災害に強い安全な街づくりの現実に欠かせないものと感じています。これらのことを胸に「地域の防災リーダーを目指して」これからも頑張っていきたいと思っています。



「小規模を活かした 地域密着の消防団を 目指して」



多賀町消防団 団長 滝川 徹人

1 多賀町の紹介

私たちが活動している滋賀県多賀町は、滋賀県でも東に位置し、岐阜県、三重県と県境が接している珍しい立地にあります。鈴鹿山系の山々が連なり、町全体の86%を山林が占め広大な緑に包まれています。また一級河川芹川、犬上川が山間部から平野部に、琵琶湖へと向かって注がれ、親水空間を形成しており、これらにより多賀町は四季折々豊かな自然を有する町です。町のインフラとしては、国道306、307号線が縦横断し基幹道路として有事の際には活用されます。

人口7,420人（令和6年3月1日現在）であり、小さな、アットホームな町です。近年、民間企業の宅地開発により、若い世代が多賀町に関心を持っていただき、

人口増加しています。他方、山間地域での人口減少・少子化が進行しており、多賀町の課題といえます。

そこで多賀町の目指すところを「輝く人、自然、歴史・文化で織りなす 多賀の未来」として子育てや移住、福祉や防災に力を入れた町として、まちづくりがなされています。

2 多賀町消防団の概要

多賀町の消防団は、2分団5班で構成されています。令和6年1月1日現在で56人が活動しています。消防ポンプ車2台、小型動力ポンプ積載車3台が配備されています。日々の訓練では班長が中心となり車両・ポンプの維持管理、メンテナンスを実施しています。



滋賀県消防大会パレード



多賀町出初式



多賀町防災訓練への消防団参加

3 多賀町消防団の活動

地域の防災活動や火災の際の初期対応など、重要な役割を果たしています。多賀町消防団は、小規模ながらも仲の良い団員たちが集まり、訓練やイベントを通じて結束力を高めています。団員同士は仲が良く、協力し合うことでより効果的な活動を展開しています。団員同士の信頼関係が築かれやすい環境だと考えています。そして、その結果として、地域の安全を守るために最善の努力を尽くすことができていると思っています。

消防団の選出は、基本的には各地域から選ばれ、火災などの災害が発生した際に、自らが住んでいる地域に迅速に対応できる組織体制をとっています。

活動としては、例えば、訓練では厳しい規律を守り、しっかりとした技術を身に付けるために努力を重ねています。訓練は、一人ひとりが正確に役割を果たすことが求められるため、チームワークやコミュニケーション能力も重要です。そのため、団員同士が協力し合い、助け合いながら訓練に取り組むことで、仲間意識を高めています。

火災時においては地域選出の消防団員が

迅速に現場へ到着し、初期消火活動を行います。また多賀町の地形的特徴として前述したとおり、山間部、そして河川が多いため台風や大雨時には、危険性が高まります。そのため、有事の際には行政と連携して警戒パトロールを実施します。それぞれ、仕事がある中ではあり、なかなか大変ではありますが、地域密着型のとてもやりがいのある活動であると考えております。

4 おわりに

多賀町では、近年異常気象と呼ばれる事象が多発しています。令和5年8月には記録的短時間雨量情報の発表、令和3年に大雪、令和元年では避難指示が発令される大雨などに見舞われています。幸い人的被害は発生しなかったものの、多くの住民が不安にかられる事態となりました。

我々、消防団は地域防災の中核として、地域生活を守る役割があると認識しています。これからも地域の防災の要として、より一層消防団活動に取り組んでまいります。



「新たな時代の消防団を 目指して」



直方市消防団 団長 鬼武 雅仁

1 はじめに

直方市は、福岡県の北部に位置しており、人口は約55,000人、市の面積は、61.76km²です。本市の東部には福智山(900.8m)を主峰にその支脈(平均標高600m)が南北に走っています。西部には六ヶ岳(339.0m)の丘陵が北西にひろがり、中央は、比較的平らな地域になっています。この地域の中央を彦山川、犬鳴川をあつめた一級河川の遠賀川が流れています。

また、明治から昭和にかけて、筑豊炭田の中心都市として栄え、国指定の筑豊炭田遺跡群や国の登録有形文化財としていくつもの建物が今もなお使用されており、豊かな自然と歴史を感じることができます。

2 直方市消防団の紹介

直方市消防団は、団本部(女性団員含む)および8分団16部で構成されており、令和6年4月1日時点で239名(条例定数285名)が所属しています。

主な装備として、消防団本部広報車1台および消防ポンプ自動車16台を保有しています。本市消防団の特徴として、8分団16部の全てに消防団格納庫及び消防ポンプ自動車を配置し、従来の65ミリホースだけでなく、50ミリホースやホースバック、ガンタイプノズルを配備しており、特に火災発生時には常備消防を補完する役割を十分に果たしており、連携した効果的な消防活動を展開しています。

3 直方市消防団の活動

直方市消防団は、火災、風水害などの災害対応はもちろんのこと、春、秋の火災予防運動期間には市消防団全体での中継や放水訓練、水防活動訓練、規律訓練を実施しています。また、毎月1日を「市民防災の日」と定めており、火災予防運動期間や歳末特別警戒期間だけでなく、毎月防火広報活動を行うことにより、市民の防火意識の向上に努めています。さらに女性消防団員が市内の保育園や高齢者施設などを訪問し、和太鼓演奏を行っており、防火広報のみでなく消防団員募集の一翼を担っています。



放水訓練

また、近年では消防団員確保のため、報酬等を含めた処遇改善に取り組むとともに、旧態依然とした各種行事を見直し、今の時代に合った消防団運営を目指し、消防団員の負担軽減も図っています。

最近では、建物構造の変化により火災の様態も変化しているため、昨年度から常備消防本部より火災防御戦術について講義を受けるとともに、消防本部と消防団が統一した活動が展開できるよう取り組みを進めています。今年度はその取り組みの一環として、従来の消防操法大会を本市独自の方式へ変更し、より実践に即した技術練成会として実施する予定としています。

4 おわりに

地域防災の要である消防団員の減少が全国的に進んでおり、本市でも特に若年層の消防団員確保は喫緊の課題となっています。これまでも様々な方策により消防団員確保に取り組んでまいりましたが、人口減少社会となるこれからは、なお一層の努力が必要と感じています。そのためにも、地域や関係機関と連携し、互いにより良い消防団を構築するために意見を出し合い、持続可能な消防団を目指し取り組んでまいりたいと考えています。



女性団太鼓



出初式



シンフォニー（長崎県） 「手を繋ぎ 気張っていきましょう」

諫早市消防団 部長 鬼塚 由美

○諫早市消防団について

諫早市は県の中央に位置し、北は多良岳、東には1991年6月に噴火した普賢岳がそびえ立ち、橘湾・大村湾・有明海があり、自然に囲まれています。干拓でも有名です。

農業や漁業が盛んで、生産者による直売所は沢山あり、とても盛況です。

2022年に西九州新幹線が開業され、長崎市内に8～9分で到着することができるようになり、路面電車の軌道がある長崎市内の道路を運転するのが容易ではない私にとっては嬉しいことでした。

ちなみに、諫早市出身有名人は、役所広司さんです。

平成10年に諫早市消防団に女性部が設立され今年で26年目になります。

令和6年3月現在21歳～57歳の年齢差はありますが、若い方の発想や意見は消防団の活動力となっています。平成29年には、第23回全国女性消防操法大会に出場しました。大会当日は、天候が悪く雨風が強い中で開催された大会でしたが、このような困難にあっても強い気持ちをもって大会に挑み、優勝には届かなかったもののチームとしては7位入賞、そのほか個人優秀選手賞の受賞などの結果を残すことができました。大会への出場を通じて、みんなが一つの目標にむかって団結することの大切を感じました。また、男性消防団員の多くの方々が仕事終わりに

ホースの片づけ等を手伝ってくださり感謝と団の絆を感じました。今では、女性消防団員も地域で行われているポンプ操法大会では放送担当で参加しています。

○活動紹介

去年はラジオ番組「おはようニッポン全国消防団」に元サッカー選手、槇野智章さんがゲスト出演され、消防団への関心を高めていただく機会となりました。番組の中では和気あいあいとした雰囲気ただよい、収録状況を見ていて緊張しないではっきり意見を伝えている団員の姿に感動しました。活動内容や消防の在り方・想いが伝わり、多くの入団者が集まると嬉しいです。

また、男性消防団員と一緒に訓練に参加しています。

礼式訓練においては、頭のとっぺんから指先、足の幅までに集中力が必要で、つい気がゆるむと体が揺れたり、手がブラブラになったり号令がかかると心構えも必要で失敗すると隣の人と顔が向き合っ



救命講習での一場面



私たち、諫早市女性消防団員！

てしまうという笑うしかない状況に陥ってしまいます。

訓練で使用する教習車には、ポンプ操作で使用する小型ポンプ、救命講習で使用する人形、水消火器など様々な機材が積載されているので、使い方の勉強もしています。そのほか、年に1回、消防学校へ1日入校していますが、消防学校では、消防・防災についての専門知識や技術の習得することのほか、他市の女性消防団員との意見交換など交流を図っています。

春と秋の火災予防週間の期間中には、諫早消防署より防火訪問の要請を受け、消防職員と一緒に地元民生委員の協力を受け、独居老人宅へ訪問し、防火についての確認や指導を行っています。

応急手当普及員の資格も団員7名全員取得しています。この資格を活かし、市の総合防災訓練や各種イベントで応急救助の体験コーナーなど様々なイベントに参加することがあります。最近では、長崎県のプロサッカーチーム「Vファーレン長崎」と一緒になって長崎県内消防団をPRするイベントに参加した際には、体験コーナーにおいて応急救助の体験を指導したりしました。

毎年1月10日に行われている出初式では、これまで立ったままで行われていましたが、今年初めて椅子を使用しての開



日常の訓練風景

催でした。女性消防団員で受付・放送・表彰係を担当しています。

地域とのつながりとして、毎年秋に開催される諫早のんのか祭りに、消防職員の方々と皿踊りに参加し地域を盛り上げています。消防職員とのつながりもできる場でもあります。

○新しい活動と今後の課題

消防団員を増やそうと、SNSを男性・女性消防団員で立ち上げ、Instagramで消防団活動をあげています。フォロワー数はまだまだですが、投稿を楽しみにしてくださっている方も多く、お声がけをいただいています。

令和4年から月に1回手話を受講しています。災害時に役に立つことは何かを考え、私たちにできることはないかと思い始めました。講師にはろうあ協会の方に依頼し、災害時に対応する手話や日常会話でも使えるような手話を学んでいます。

女性団員が年々減っているのも、自分たちの活動をもっと地域の方々に知ってもらい、一緒に活動してくれる方を増やしていきたいと思います。

また、諫早市は雨量が多く、河川の氾濫や土砂災害が多く発生しているため、ハザードマップの活用や防災グッズなどの普及を広めていく活動を行ってきたいです。



滝沢市消防団のPR活動について

岩手県 滝沢市消防団

1 滝沢市消防団団員募集PR活動

滝沢市は岩手山の南東に位置し、一級河川の北上川とその支流である雫石川が南北に流れています。市内には岩手県立大学(岩手県立大学短期大学部を含む)と盛岡大学(盛岡大学短期大学部を含む)があり、県都盛岡市と隣接していることからベッドタウンとして宅地開発が進んだ地域です。

全国的に消防団員が減少する中、滝沢市消防団も団員の流出が著しく、平成29年度までは充足率が80%を超えておりましたが、令和5年4月1日時点では、昭和55年に消防団員の定員を420名に改正した後、初めて定員が300人を割り、288名の消防団員で活動することとなりました。

この逼迫した状況下において、滝沢市消防団では次の事業を実施し、消防団員の確保に取り組んでいます。

2 市内大学校への消防団入団促進PR活動事業

令和5年10月7日(土)盛岡大学・盛岡短期大学部で開催された大学祭に「消防団PRブース」を出展し、消防団員の確保に向けた「消防ポンプ自動車の展示」「防火衣の着用体験」「記念撮影」など、消防団のPR活動を実施しました。

また、令和5年10月28日(土)岩手県立大学・岩手県立大学短期大学部で開催された大学祭にも出展の許可をいただき、上記PR活動のほか、滝沢市消防団本部女性団員を伴い、大学祭をねり歩きながら、活気のある未来の消防団員の確保に向けた「消防団入団リーフレットの配布」を実施しました。

これらは、平成27年度に岩手県立大学・岩手県立大学短期大学部の大学祭実行委員会の協力により実現したものであり、その当初は「女性や若者をはじめとする消防団加入促進モデル事業」としてスタートした事業でありました。平成29年度からは、盛岡大学・盛岡短期大学部の大学祭実行委員会の協力もあり、現在の活動に至ります。



盛岡大学・盛岡短期大学部大学祭



岩手県立大学・岩手県立大学短期大学部大学祭



3 ラッパ隊入団促進キャンペーンを実施

令和5年7月14日(金)盛岡大学・盛岡短期大学部の吹奏楽部を訪問し「ラッパ隊入団促進キャンペーン(説明会)」を実施しました。当日は、配布した資料を基に「消防団員の活動は」「消防団ラッパ隊とは」「報酬・福利厚生等の制度について」の説明を行い、令和3年度に実施した「滝沢市消防演習－ラッパ吹奏訓練(行進間)－」を上映するなど、消防団ラッパ隊の活動について、PRを実施しました。

令和5年7月19日(水)岩手県立大学・岩手県立大学短期大学部の吹奏楽部にも上記説明会を実施しました。水色の制服を着用し、消防ラッパを吹奏する姿は、管楽器奏者の方には新鮮な様子で、とても好感触でした。



滝沢市消防団ラッパ隊
入団促進キャンペーン
(盛岡大学、岩手県立大学)

4 女性消防団員、学生消防団員の確保

上記事業のほか、各分団の積極的な勧誘活動もあって、令和5年度において20名の新入団員を確保することができ、そのうち6名は女性消防団員でした。これは、過去と比較しても類を見ない実績であり、滝沢市消防団全体として「消防団員の減少」への危機意識の高さが垣間見えたものと感じています。

近年、滝沢市消防団では、特に女性・学生消防団員の入団促進に力を注いでおり、令和3年度から令和5年度現在に至るまで、47名の新入団員を迎え、そのうち14名が女性消防団員、6名が学生消防団員(専門学校・大学在籍)です。

職場や地域のコミュニティから「入団の誘い」を受け、入団を決意した団員がほとんどであり、この人となら一緒に活動できると感じてもらえたことが「入団のきっかけ」であると感じています。

5 今後の取り組みについて

滝沢市消防団では、様々な消防団入団促進PR活動を行うとともに、福利厚生の整備、また、団員一人一人の負担の軽減を図り、地域防災力の要を担う消防団員が安全に安心して永く活動することができる環境づくりを目指していきます。

【参考URL】

滝沢市ホームページ「写真で見るニュース」

- ・日ごろの活動を紹介～盛大学祭に消防団が参加

https://www.city.takizawa.iwate.jp/news_kako/news_2023/news051007.html

- ・消防団活動をPR ～県立大学鷺風祭にボンブ車

https://www.city.takizawa.iwate.jp/news_kako/news_2023/news051028.html



持続可能な消防団組織を目指して

愛媛県 (公財)愛媛県消防協会

愛媛県消防協会では、令和2年度から『女性消防団員確保対策事業』として愛媛県からの委託を受け、更なる女性消防団員の増加を図っている。平成30年の西日本豪雨の際、女性消防団員が避難所運営はもとより、被災者に寄り添った細やかな対応を行ったことにより、改めて女性消防団員の必要性が認められたものである。

内閣府の第4次男女共同参画基本計画の目標値5%(千人)を目指しているが、本県女性消防団員は増加傾向にはあるものの、令和5年10月1日現在648名と伸び悩んでいる。

令和2年度からの3年間では、女性消防団員確保の取組事例の情報共有を図ったうえで、新たな課題等を抽出し、解決策を検討するほか、経験豊富な講師を招き講演、女性消防団員確保のためのスキルアップ講座を開催するほか、グループワーク等を行い、意見を出し合った。団員確保の取組実施となると、各市町や消防団幹部の協力が不可欠であることから、男性消防団員への周知も行っているが、新たな価値観の受け入れには、いろいろと時間がかかるものだ。

令和5年度は、広報力を上げていくことに重点を置き、研修会を開催した。今までとは異なる視点で消防団を分析し、一般住民へ消防団をアピールしていく方法を用いるため、講師に、テレビ制作会社のディレクターを迎え、『エンタメ的に考える「消防団が盛り上がるには』と題し、ワークショップを実施した。



<研修会の内容>

研修会には、9市町31名(女性20名・男性11名)の消防関係者が参加した。6つのグループに分かれ、付箋を用いながら、ディスカッションを行った。「入団者を増やすには」、入団したい理由を増やす・入団したくない理由を減らす。「退団者を減らすには」、退団したい理由を減らす・退団したくない理由を増やす。それぞれが持ち寄った加入促進案をこの4つのジャンルに分け、各グループでやってみたいと思うものを発表した。

公益社団法人 愛媛県消防協会			
入団したい理由 増		退団したい理由 減	
▽制服いろいろ		▽やりがいアップ	
▽メイク・ネイル自由		▽参加率の低さの許容	
▽子供イベント・運動会		▽スキルアップ	
▽ポイ活		▽子供から感謝状	
▽ドローン導入			
入団したくない理由 減		退団したくない理由 増	
▽制服いろいろ		▽飲み会	
▽メイク・ネイル自由		▽定年制度をなくすOG会	
▽ポイ活		▽ポイ活・会員証	
▽家族の賛成		▽子供のケア	

実現可能かどうかは考えず、自分たちが団で取り組んでみたいことをアウトプットしていく手法を用いたので、とても活発な交流ができた。

この案を、実現可能なものにしていくには、各市町が持ち帰り考えていくだけではなく、従来の概念へのアタックや、県・国等行政のサポートも必要になるため、各働きかけについて、当協会のリーダーシップが重要になってくると感じている。

<効果>

目線を変え、シンプルに考えることで見えてきたものが多くあったようである。

- 他市町の消防関係者と同じテーブルで話ができ、普段と異なる刺激があった。気づけていなかったことがたくさんあることを知った。
- 同じようなビジョンや問題意識をもっている消防関係者と接することで、積極になれる気がした。
- 思っても口に出せなかったことをアウトプットすることで、「変わるかもしれない」と思うと楽しみだ。
- 漠然とした方向性だけでなく、広報の方法について考えるきっかけをもらったので、自分の市町で実現できるように動いていきたい。

<今後の展望>

具体的な実践方法は、各市町が持ち帰り考えていくのだが、「ドローンの導入」や「子供からの感謝状」など、市町単位で実現に向け動いていけそうなものもあるので、展開を見守っていきたい。

また、実際に内容を企画したり、実行したりする際に、全県的な後押しや、エンタメ的な発想が必要になる場合は、積極的にサポートしていきたい。

第30回全国消防操法大会審査員研修会を開催

(公財)日本消防協会 業務部

令和6年5月29日(水)・30日(木)・31(金)の3日間、宮城県消防学校において、第30回全国消防操法大会審査員研修会を開催しました。

この審査員研修会は、訓練礼式に精通し、ポンプ操法の指導及び経験が豊富であり、審査員最適者として都道府県消防協会長から推薦された方々を対象に、第30回全国消防操法大会実施要領等の統一を期すため開催したものです。

参加者が繰り返しシミュレーションを行い、審査箇所を確認しました。



総務省消防庁 本島消防団専門官 挨拶



日本消防協会 下重業務部長 挨拶



宮城県復興・危機管理部 田畑消防課長 挨拶



座学の様子



実技研修の様子



実技研修の様子



小型ポンプの部 審査要領確認



小型ポンプの部 審査要領確認



ポンプ車の部 審査要領確認



ポンプ車の部 審査要領確認



第24回ヨーロッパ青少年消防オリンピックへの派遣について

(公財)日本消防協会 国際部

1 ユーロッパ派遣について

我が国少年消防クラブは、約4,106クラブ、約39万人が活動しており、その育成支援は、将来の消防防災を担う人づくりとしても重要です。そこで、本年7月、CTIF(ヨーロッパ中心の国際消防組織、日本も加盟)がイタリアで開催する青少年消防オリンピックに、日本からも選手団を派遣し、我が国少年消防クラブメンバーがヨーロッパ各国青少年と競い、交流を深めることとしました。

今回の派遣は、コロナ禍等の理由により、前々回の2019年スイス大会以来5年ぶりの派遣となるもので、我が国少年消防クラブの一層の発展に役立つものと考えています。

(1) 派遣先

イタリア共和国

トランティーノ/ボルゴ・ヴァルスガーナ

(2) 派遣期間

令和6年7月19日(金)~29日(月)

(うち大会期間は7月21日(日)~28日(日))

(3) ユーロッパ青少年消防オリンピック概要

- ・2年に1回開催、日本及びヨーロッパから21か国、約600名が参加し、1チーム10名、年齢12歳から16歳までが参加
- ・大会では、消防の実技を取り入れた消防障害物競走や400メートル障害リレーの他、参加各国の文化歴史等を発表する国際交流イベント等が行われる予定

(4) 派遣少年消防クラブ

埼玉県	三郷市	三郷市少年消防クラブ
東京都	中央区	日本橋消防少年団
兵庫県	神戸市兵庫区	Bosai Jr.消防団ひょうご
高知県	中土佐町	中土佐ジュニア消防団

※各クラブ員5人、
引率者1人
合計24人



●消防障害物競走



●400m障害リレー



※写真は過去国際大会での模様

2 国内事前研修会について

ヨーロッパ青少年消防オリンピックに派遣する選手団の事前研修会を、東京消防庁消防学校において行いました。事前研修会では、屋外トラックに設定された消防障害物競走や400m障害リレーのコースを使用して練習を行い、競技の流れやヨーロッパ仕様の消防器具の取扱方法について、丁寧に確認しました。

また、激励会では、秋本会長から選手団に対し「事前研修の2日間でチームワークを深めていただき、大会本番では日の丸を輝かせて、一生に残る思い出としてほしい。」と激励の言葉をいただき、その後、三郷市少年消防クラブの安藤 岬さんが選手を代表して力強く選手宣誓を行いました。

さらに、総務省消防庁福西地域防災室長、東京消防庁古賀防災部長から応援のお言葉をいただき、それに応えるべく各クラブの代表が熱い意気込みを語りました。

(1) 研修日程

研修内容等			場所
5月25日(土)	13:00~16:00	開会式 消防競技の練習	東京消防庁消防学校
	18:00~20:00	激励会	ホテルグランドヒル市ヶ谷
26日(日)	9:00~15:00	お国自慢の練習(オタ芸) 消防競技の練習	東京消防庁消防学校

(2) 研修の様子



消防障害物競走の練習風景



400m障害リレーの練習風景



規律訓練の様子



お国自慢(オタ芸)の練習



派遣団を代表して選手宣誓した
三郷市少年消防クラブの安藤 岬さん



激励会 記念撮影

ODAを活用した ブータン王国消防技術援助について（報告）

（公財）日本消防協会 国際部

日本消防協会は、消防車両寄贈と消防技術援助のため、令和6年3月17日から29日までブータン王国に対し、5名（うち東京消防庁2名）を派遣しました。

これは、日本消防協会が昭和59年度から開発途上国に対し消防車等を寄贈している国際援助事業の一環として、外務省のODA（草の根）資金を活用して行ったもので、海外への技術援助は平成28年度のケニア共和国、平成29年度のペルー共和国、平成31年度のベトナム社会主義共和国に続く4か国目でした。ブータン王国と1986年から外交関係を樹立し、当協会は平成12年から令和4年まで14台の車両を寄贈しています。

令和5年度のODAではブータン王国に水槽付消防ポンプ自動車2台、消防ポンプ自動車1台、小型動力付き積載車1台の合計4台の寄贈と、これらの車両の有効的な運用と消防隊員の活動スキルの向上の技術援助を行いました。

援助実績

平成12年度	平成17年度	平成25年度	令和5年度
10	2	2	4



ブータン国旗



ブータン警察署



ブータン王国地図

1 ブータン王国の紹介

ブータン王国は、南アジアに位置する立憲君主国家です。首都はティンプーで面積は38,400km²、人口約782,500人（令和4年現在）です。北は中国、東西南はインドと国境を接しています。現在、ブータン国内には約150人の日本人が居住しており、その多くが国際協力機構（JICA）の関係者で、青年海外協力隊スタッフやシニアボランティアとなっています。

ブータンの消防体制は、ブータン警察に属しています。ブータン警察全体で1,000人の職員がおり、その内約200人が消防に従事し

ています。消防車両は約50台で多くは日本やインドからの寄贈車両です。消火栓や防火水槽は、国の重要な施設にはあるが、ほとんどは川や給水車から水利をとっています。

ブータン王国は親日国で、1964年から農業指導者として西岡氏が尽力し、今ではたくさんの野菜が収穫できるようになりました。なかでも唐辛子は4人家族の1週間の消費量が1kgというのには驚きました。内陸国という土地柄もあり、ゾンカ語、ツァンラカ語、ネパール語、英語と4か国語（クアドリンガル）話せる人が多いという特徴がありました。

2 訓練

3/19 派遣団は渡航後、すぐにブータン警察本部を訪問し、到着の報告、挨拶と技術援助の打合せを行いました。その後、ブータンJICAに今回の事業の概要説明及び滞在時のアドバイスを頂きました。

3/20研修会場へ移動し日本から届いた寄贈車両や供与品を確認しました。乾季には珍しく、あいにくの雨でした。車庫にて水槽付き消防ポンプ自動車の積載品の説明、メンテナンスを指導し、防火衣とロープの寄贈をしました。



3/21 エンジンカッター・チェーンソーの取扱いを指導しました。2ストローク・4ストロークの違いの説明をして混合燃料の作成方法、使用方法、メンテナンス方法を指導し安全管理を徹底しました。午後は三連はしごの説明、点検要領、使用時の安全管理について指導しました。



3/22 寄贈車両の取扱いを指導しました。車両の操作要領をはじめ、メンテナンスや部品の交換方法などメモを取り、スマートフォンで撮影するなど熱心に聞いていました。



3/25 総合訓練に向けてメンテナンス部門と訓練部門に分けて実施しました。車両点検や日常点検の用紙を英訳して渡し、毎日点検するように指導しました。訓練部門では、ホワイトボードに記入して図で理解するようにしたのが非常に効果的でした。車両を配置して、各々の役割を伝えました。



3/26 先日に引き続き訓練を実施しました。技術支援を4か国実施して毎回言われることが、メンテナンス技術の高さです。休憩の時間も囲まれて質問を受けていました。三連はしごの取扱いも毎日の訓練で見違えるほど上手くなりました。

標高2,300mでの標高も感じさせない動きで、私たちも感銘を受けました。



3 総合訓練・修了式・引き渡し式

技術援助最終日には、在インド日本国大使館北郷公使、ブータン JICA 事務所所長山田氏、ブータン警察署長ご出席の下、総合訓練の査閲、修了式及び引き渡し式が行われました。

総合訓練では、2 班に分けて 2 種類の訓練を実施しました。訓練場を広く使用し、中継体制からの放水や、エンジンカッターでの切断、三連はしごを使用した介添え救出と訓練の成果を披露しました。今回の研修で学んだ

ことと自分達が今まで培ってきた技術を合わせ、日本の消防車を有効に活用できることを披露し、在インド日本国大使館、ブータン JICA、ブータン警察署長からも盛大な拍手をいただきました。

訓練終了後、日本消防協会国際部次長の合田から修了書を渡し、皆凛々しい表情でした。午後にはブータン警察本部へ場所を移し、外務省の引き渡し式を行いました。



修了式後の集合写真

4 おわりに

今回の派遣を通じて、人に伝えることの難しさを学びました。メールのやり取りから始まり、現地の状況や技術力が未知数な中進めていき技術援助を行いました。伝えたいことがまだ沢山ありました。限られた時間の中、私たちを温かく迎え入れ協力してくれたブータン警察の皆さんに感謝しかありません。物を大事にするブータン警察に今回の派遣で、『安全に対する意識付け』と『メンテナンスの技術』を教えられたと思います。

寄贈車両はブータン王国内の 4 県に配備され、効果的な消火活動を行うとともに、ブータン王国国民の生命・身体・財産を守るために活用されます。

最後に、外務省、在インド日本国大使館、JICA ブータン、東京消防庁その他多数の方のお力添えのおかげで実現することができましたことに感謝申し上げます。ブータン警察の『安全に対する意識付け』と『メンテナンスの技術』が根付き、ブータン王国の安心安全を守ってくれることを願っています。



外務省 引き渡し式



総合訓練

令和6年春の叙勲・褒章受章者を発表

総務省消防庁

◇春の叙勲(消防関係)

令和6年春の叙勲(消防関係)受章者は627名で、勲章別内訳は次のとおりです。

瑞宝小綬章	1名	瑞宝小綬章	35名
旭日双光章	4名	瑞宝双光章	116名
瑞宝単光章	471名	計	627名

受章者は、永年にわたり国民の生命、身体及び財産を火災等の災害から防御するとともに消防力の強化、充実に尽力され、消防の発展に貢献し、社会公共の福祉の増進に寄与された方々です。

◇春の褒章(消防関係)

令和6年春の褒章(消防関係)受章者は96名で、褒章別内訳は次のとおりです。

紅綬褒章	1名	黄綬褒章	6名
藍綬褒章	89名	計	96名

受章者のうち、

- ① 紅綬褒章は、災害現場等において、自己の危険を顧みず人命救助に尽力した者
- ② 黄綬褒章は、永年にわたり消防機器の研究開発及び製造販売業務や消防設備保守業務等に精励するとともに、業界の発展に大きく寄与した者
- ③ 藍綬褒章は、消防団員や女性防火クラブ員として永年にわたり消防防災活動に献身的に努力し、消防の発展に大きく寄与した者を対象としています。

令和6年春の叙勲受章者名簿(消防関係)

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名(年齢)	性別	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名(年齢)	性別
瑞 小	北 海 道	元 小樽市 消防正監	青 山 光 司(70)	男	瑞 単	北 海 道	元 根室北部消防事務 組合中標津消防団 副団長	荒 武 彦(68)	男
瑞 双	北 海 道	元 大樹消防団 団長	金 丸 正 道(75)	男	瑞 単	北 海 道	元 士別地方消防事務 組合士別市消防団 副団長	有 倉 道 雄(70)	男
瑞 双	北 海 道	元 稚内地区消防事務 組合猿払消防団 団長	川 谷 英 夫(74)	男	瑞 単	北 海 道	元 浦幌町消防団 団長	飯 田 信 男(72)	男
瑞 双	北 海 道	元 深川地区消防組合 秩父別消防団 団長	熊 田 政 人(68)	男	瑞 単	北 海 道	元 北留町消防組合幌 延町消防団 副団長	板 垣 富 夫(72)	男
瑞 双	北 海 道	元 士別地方消防事務 組合剣淵町消防団 団長	佐 藤 武(68)	男	瑞 単	北 海 道	元 網走地区消防組合 網走消防団 副団長	伊 藤 勉(76)	男
瑞 双	北 海 道	元 室蘭市消防団 団長	佐 藤 幸 男(80)	男	瑞 単	北 海 道	元 檜山広域行政組合 せたな町瀬幡消防 団分団長	内 木 勇 一(74)	男
瑞 双	北 海 道	元 根室北部消防事務 組合中標津消防団 団長	末 山 昌 隆(70)	男	瑞 単	北 海 道	元 札幌市西消防団 副団長	尾 崎 武(83)	男
瑞 双	北 海 道	元 鷹栖町消防団 団長	長 谷 岡(70)	男	瑞 単	北 海 道	元 旭川市消防団 分団長	落 合 心 治(75)	男
瑞 双	北 海 道	元 南空知消防組合南 幌消防団 団長	本 間 秀 正(69)	男	瑞 単	北 海 道	元 江別市消防団 副分団長	海 田 清 司(67)	男
瑞 双	北 海 道	元 幕別町消防団 団長	八 巻 省 三(71)	男	瑞 単	北 海 道	元 釧路北部消防事務 組合鶴居消防団 分団長	菊 地 哲 男(69)	男
瑞 単	北 海 道	元 登別市消防団 分団長	相 澤 達 彦(69)	男	瑞 単	北 海 道	元 小樽市消防団 分団長	北 梓 萌(75)	男
瑞 単	北 海 道	元 札幌市白石消防団 副団長	青 木 信 博(79)	男	瑞 単	北 海 道	元 胆振東部消防組合 穂別消防団 副団長	木 村 樹 富(72)	男

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別
瑞 単	北 海 道	元 北後志消防組合仁木消防団 分団長	西 條 純 一 (76)	男
瑞 単	北 海 道	元 函館市函館消防団 分団長	坂 口 善 美 (76)	男
瑞 単	北 海 道	元 帯広市消防団 分団長	佐 藤 昭 造 (73)	男
瑞 単	北 海 道	元 渡島西部広域事務組合知内消防団 副団長	佐 藤 昌 彦 (71)	男
瑞 単	北 海 道	元 南宗谷消防組合枝幸消防団 分団長	下 間 豊 (74)	男
瑞 単	北 海 道	元 釧路市消防団 分団長	鈴 本 昭 治 (82)	男
瑞 単	北 海 道	元 岩見沢地区消防事務組合岩見沢消防団 副団長	鈴 本 昭 良 (74)	男
瑞 単	北 海 道	元 南渡島消防事務組合北斗消防団 副団長	高 橋 満 (75)	男
瑞 単	北 海 道	元 紋別地区消防組合雄武消防団 副団長	高 宮 博 (74)	男
瑞 単	北 海 道	元 北後志消防組合赤井川消防団 分団長	袴 下 栄 雄 (68)	男
瑞 単	北 海 道	元 上川北部消防事務組合風連消防団 副団長	田 中 廣 勝 (72)	男
瑞 単	北 海 道	元 根室北部消防事務組合羅臼消防団 副団長	田 中 好 美 (87)	男

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別
瑞 単	北 海 道	元 北見地区消防組合北見消防団 副団長	谷 本 勇 治 (70)	男
瑞 単	北 海 道	元 羊蹄山ろく消防組合喜茂別消防団 団長	千 葉 真一郎 (73)	男
瑞 単	北 海 道	元 北見地区消防組合訓子府消防団 部長	辻 幸 男 (78)	男
瑞 単	北 海 道	元 砂川地区広域消防組合浦臼消防団 副団長	東 藤 兄 義 (71)	男
瑞 単	北 海 道	元 日高中部消防組合新冠消防団 副団長	長 浜 徳 行 (76)	男
瑞 単	北 海 道	元 日高東部消防組合浦河町消防団 副分団長	野 畑 直 高 (72)	男
瑞 単	北 海 道	元 石狩北部地区消防事務組合新篠津消防団 分団長	服 部 伸 行 (71)	男
瑞 単	北 海 道	元 檜山広域行政組合江差町消防団 副団長	原 田 秀 秋 (68)	男
瑞 単	北 海 道	元 北広島市消防団 分団長	前 田 信 (69)	男
瑞 単	北 海 道	元 滝川地区広域消防事務組合赤平消防団 団長	三 浦 自由男 (73)	男
瑞 単	北 海 道	元 森町消防団 副団長	水 元 宏 (71)	男
瑞 単	北 海 道	元 増毛町消防団 副分団長	山 道 甚 一 (86)	男

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別
瑞 単	北 海 道	元 夕張市消防団 分団長	山 本 昭 雄 (73)	男
瑞 単	北 海 道	元 石狩北部地区消防事務組合石狩消防団 副団長	吉 田 久 雄 (76)	男
瑞 小	青 森 県	元 弘前地区消防事務組合消防正監	木 村 誠 二 (70)	男
瑞 双	青 森 県	元 むつ市消防団 団長	片 川 春 樹 (69)	男
瑞 双	青 森 県	元 三戸町消防団 団長	百 沢 俊 昭 (69)	男
瑞 単	青 森 県	元 八戸市消防団 分団長	後 村 国 八 (75)	男
瑞 単	青 森 県	元 野辺地町消防団 分団長	市ノ渡 廣 志 (72)	男
瑞 単	青 森 県	元 五所川原市消防団 分団長	加 藤 祐 祐 (70)	男
瑞 単	青 森 県	元 南部町消防団 団長	金 澤 正 一 (71)	男
瑞 単	青 森 県	元 平川市消防団 副団長	木 村 章 悦 (70)	男
瑞 単	青 森 県	元 青森市青森消防団 副団長	高 坂 睦 雄 (71)	男
瑞 単	青 森 県	元 つがる市消防団 分団長	佐々木 豊 美 (71)	男

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別
瑞 単	青 森 県	元 蓬田村消防団 副団長	佐 藤 信 彦 (72)	男
瑞 単	青 森 県	元 十和田市消防団 副分団長	志 田 賢 一 (75)	男
瑞 単	青 森 県	元 横浜町消防団 副団長	新 館 虎 夫 (72)	男
瑞 単	青 森 県	元 おいらせ町消防団 分団長	鈴 木 克 好 (74)	男
瑞 単	青 森 県	元 階上町消防団 団長	内 城 孝 男 (70)	男
瑞 単	青 森 県	元 弘前市消防団 副団長	成 田 由 弘 (70)	男
瑞 単	青 森 県	元 東北町消防団 副団長	沼 辺 正 男 (71)	男
瑞 単	青 森 県	元 大間町消防団 分団長	能 戸 強 (71)	男
瑞 単	青 森 県	元 弘前市消防団 副団長	花 田 敏 英 (70)	男
瑞 単	青 森 県	元 外ヶ浜町消防団 副団長	舘 谷 修 (71)	男
瑞 単	青 森 県	元 東通村消防団 副団長	山 崎 一 隆 (71)	男
瑞 双	岩 手 県	元 紫波町消防団 団長	阿 部 秀 夫 (72)	男

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別
瑞 双	岩 手 県	元 雫石町消防団 団長	上中屋敷 俊彦 (71)	男
瑞 双	岩 手 県	元 奥州市消防団 団長	千葉 利 幸 (66)	男
瑞 双	岩 手 県	元 葛巻町消防団 団長	橋 本 秀 雄 (76)	男
瑞 双	岩 手 県	元 矢巾町消防団 団長	藤 原 由 巳 (75)	男
瑞 双	岩 手 県	元 滝沢市消防団 団長	柳 村 明 (70)	男
瑞 双	岩 手 県	元 宮古市消防団 団長	山下 修 治 (84)	男
瑞 単	岩 手 県	元 紫波町消防団 分団長	阿 部 金 三 郎 (74)	男
瑞 単	岩 手 県	元 山田町消防団 分団長	荒 川 明 見 (76)	男
瑞 単	岩 手 県	元 石鳥谷町消防団 分団長	板 垣 幸 壽 (81)	男
瑞 単	岩 手 県	元 一関市消防団 分団長	伊 藤 貢 一 (73)	男
瑞 単	岩 手 県	元 釜石市消防団 分団長	後 川 司 (71)	男
瑞 単	岩 手 県	元 盛岡市消防団 分団長	浦 島 敬 (80)	男

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別
瑞 単	岩 手 県	元 一関市消防団 分団長	小野寺 信 二 (73)	男
瑞 単	岩 手 県	元 二戸市消防団 副団長	小 原 司 (76)	男
瑞 単	岩 手 県	元 釜石市消防団 団長	川 崎 喜 久 治 (74)	男
瑞 単	岩 手 県	元 遠野市消防団 分団長	菊 池 弘 弘 (72)	男
瑞 単	岩 手 県	元 八幡平市消防団 副団長	工 藤 弘 光 (77)	男
瑞 単	岩 手 県	元 岩手町消防団 副団長	齋 藤 進 (70)	男
瑞 単	岩 手 県	元 北上市消防団 副分団長	佐 藤 敏 孝 (73)	男
瑞 単	岩 手 県	元 盛岡市消防団 副団長	館 澤 政 宏 (75)	男
瑞 単	岩 手 県	元 久慈市消防団 副分団長	榎 木 照 夫 (74)	男
瑞 単	岩 手 県	元 平泉町消防団 団長	千 葉 勇 夫 (71)	男
瑞 単	岩 手 県	元 宮古市消防団 分団長	中 村 肇 (69)	男
瑞 双	宮 城 県	元 宮城県南三陸町消防団 団長	高 橋 一 郎 (76)	男

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別
瑞 双	宮 城 県	元 栗原市消防団 団長	千葉 孝 夫 (77)	男
瑞 双	宮 城 県	元 美里町消防団 団長	横 地 幸 勝 (74)	男
瑞 単	宮 城 県	元 松島町消防団 分団長	赤 間 幸 雄 (70)	男
瑞 単	宮 城 県	元 色麻町消防団 分団長	浅 野 靖 郎 (71)	男
瑞 単	宮 城 県	元 大崎市消防団 分団長	浅 間 茂 (74)	男
瑞 単	宮 城 県	元 涌谷町消防団 分団長	市 川 一 夫 (71)	男
瑞 単	宮 城 県	元 丸森町消防団 分団長	伊 藤 昭 一 (71)	男
瑞 単	宮 城 県	元 栗原市消防団 副団長	今 井 裕 一 (74)	男
瑞 単	宮 城 県	元 登米市消防団 副団長	小野寺 繁 喜 (71)	男
瑞 単	宮 城 県	元 登米市消防団 副団長	佐々木 清 (70)	男
瑞 単	宮 城 県	元 栗原市消防団 副団長	佐々木 次 男 (74)	男
瑞 単	宮 城 県	元 気仙沼市消防団 分団長	佐 藤 浩 一 (76)	男

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別
瑞 単	宮 城 県	元 仙台市泉消防団 副団長	佐 藤 正 芳 (76)	男
瑞 単	宮 城 県	元 仙台市宮城消防団 団長	澤 口 政 志 (70)	男
瑞 単	宮 城 県	元 仙台市宮城野消防団 副団長	鈴 木 俊 弘 (70)	男
瑞 単	宮 城 県	元 村田町消防団 分団長	高 橋 利 幸 (75)	男
瑞 単	宮 城 県	元 石巻市消防団 副団長	千葉 栄 一 (74)	男
瑞 単	宮 城 県	元 角田市消防団 団長	富 田 正 (70)	男
瑞 単	宮 城 県	元 加美町消防団 副団長	平 澤 亨 (73)	男
瑞 単	宮 城 県	元 石巻市消防団 副団長	松 本 久 一郎 (73)	男
瑞 単	宮 城 県	元 蔵王町消防団 分団長	村 上 良 一 (78)	男
瑞 単	宮 城 県	元 大郷町消防団 分団長	村 山 良 男 (73)	男
瑞 単	宮 城 県	元 登米市消防団 副団長	山 内 繁 喜 (71)	男
瑞 単	宮 城 県	元 名取市消防団 分団長	渡 邨 健 一 (74)	男

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別
瑞 小	秋 田 県	元 能代山本広城市町 村圏組合 消防正監	日 沼 一 之 (72)	男
瑞 双	秋 田 県	元 大館市消防団 団長	齋 藤 勉 (73)	男
瑞 双	秋 田 県	元 大仙市消防団 団長	佐 藤 一 (71)	男
瑞 双	秋 田 県	元 横手市消防団 団長	菅 原 一太郎 (71)	男
瑞 双	秋 田 県	元 横手市大雄消防団 団長	高 橋 良 則 (71)	男
瑞 単	秋 田 県	元 北秋田市消防団 分団長	加 賀 昇 (74)	男
瑞 単	秋 田 県	元 男鹿市消防団 分団長	木 元 一 夫 (74)	男
瑞 単	秋 田 県	元 大仙市消防団 副団長	小 柳 伸 一 (71)	男
瑞 単	秋 田 県	元 八郎潟町消防団 団長	齊 藤 一 (70)	男
瑞 単	秋 田 県	元 秋田市消防団 分団長	佐 藤 萌 雄 (74)	男
瑞 単	秋 田 県	元 秋田市消防団 分団長	佐 藤 勲 夫 (73)	男
瑞 単	秋 田 県	元 秋田市消防団 分団長	佐 藤 信 和 (73)	男

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別
瑞 単	秋 田 県	元 大仙市消防団 副団長	佐 藤 昇 (72)	男
瑞 単	秋 田 県	元 にかほ市消防団 分団長	佐 藤 義 秋 (73)	男
瑞 単	秋 田 県	元 羽後町消防団 団長	佐 藤 良 友 (69)	男
瑞 単	秋 田 県	元 湯沢市消防団 分団長	菅 恵一郎 (79)	男
瑞 単	秋 田 県	元 由利本荘市消防団 副団長	鈴 木 輝 秋 (69)	男
瑞 単	秋 田 県	元 男鹿市消防団 分団長	高 桑 正 一 (78)	男
瑞 単	秋 田 県	元 横手市消防団 副団長	高 橋 亮 介 (71)	男
瑞 単	秋 田 県	元 上小阿仁村消防団 分団長	田 口 幸 直 (77)	男
瑞 単	秋 田 県	元 仙北市消防団 副団長	竹 下 正 勝 (75)	男
瑞 単	秋 田 県	元 羽後町消防団 分団長	藤 原 和 彦 (77)	男
瑞 単	秋 田 県	元 仙北市消防団 団長	渡 辺 勇 悦 (71)	男
瑞 小	山 形 県	元 山形市 消防正監	安 達 隆 明 (72)	男

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別
瑞 単	山 形 県	元 尾花沢市消防団 分団長	阿 部 淳 (66)	男
瑞 単	山 形 県	元 小国町消防団 分団長	飯 沢 三 幸 (66)	男
瑞 単	山 形 県	元 遊佐町消防団 分団長	尾 形 秀 也 (69)	男
瑞 単	山 形 県	元 最上町消防団 副団長	岸 錦 也 (65)	男
瑞 単	山 形 県	元 飯豊町消防団 分団長	後 藤 恵一郎 (68)	男
瑞 単	山 形 県	元 真室川町消防団 分団長	佐 藤 勝 郎 (66)	男
瑞 双	福 島 県	元 塙町消防団 団長	木 田 廣 明 (74)	男
瑞 双	福 島 県	元 福島市消防団 団長	齋 藤 長三郎 (73)	男
瑞 双	福 島 県	元 川俣町消防団 団長	佐 藤 充 孝 (73)	男
瑞 双	福 島 県	元 新地町消防団 団長	角 田 正 悦 (71)	男
瑞 双	福 島 県	元 会津若松地方広域 市町村圏整備組合 消防正監	平 岡 孝一郎 (70)	男
瑞 双	福 島 県	元 葛尾村消防団 団長	松 本 信 夫 (72)	男

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別
瑞 単	福 島 県	元 南会津町消防団 副団長	青 柳 正 則 (69)	男
瑞 単	福 島 県	元 いわき市消防団 副団長	面 川 一 茂 (70)	男
瑞 単	福 島 県	元 会津若松市消防団 分団長	鹿 目 敦 (66)	男
瑞 単	福 島 県	元 伊達市消防団 副団長	齋 藤 謙次郎 (73)	男
瑞 単	福 島 県	元 郡山市消防団 副団長	鈴 木 弘 伸 (65)	男
瑞 単	福 島 県	元 福島市消防団 副団長	高 野 一 男 (70)	男
瑞 単	福 島 県	元 飯館村消防団 団長	高 野 進 (74)	男
瑞 単	福 島 県	元 下郷町消防団 副団長	玉 川 久米雄 (67)	男
瑞 単	福 島 県	元 桑折町消防団 団長	津 田 次 男 (74)	男
瑞 単	福 島 県	元 喜多方市消防団 分団長	中 村 繁 (75)	男
瑞 単	福 島 県	元 二本松市消防団 団長	野 地 政 秋 (73)	男
瑞 単	福 島 県	元 いわき市消防団 分団長	蛭 田 英 一 (78)	男

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別
瑞 単	福 島 県	元 郡山市消防団 副団長	増 子 広 和 (66)	男
瑞 単	福 島 県	元 福島市消防団 副団長	松 川 修 治 (71)	男
瑞 単	福 島 県	元 檜葉町消防団 分団長	山 内 茂 樹 (72)	男
瑞 小	茨 城 県	元 茨城西南部地方広域 市町村圏事務組合 消防正監	越 渡 静 男 (70)	男
瑞 小	茨 城 県	元 鹿島地方事務組合 消防正監	田 松 庄太郎 (70)	男
瑞 双	茨 城 県	元 城里町消防団 団長	森 田 宏 二 (69)	男
瑞 単	茨 城 県	元 稲敷市消防団 副団長	秋 本 利 夫 (67)	男
瑞 単	茨 城 県	元 北茨城市消防団 副団長	荒 川 育 雄 (73)	男
瑞 単	茨 城 県	元 茨城町消防団 団長	飯 山 幸 一 (71)	男
瑞 単	茨 城 県	元 鉾田市消防団 団長	大 槻 高 志 (69)	男
瑞 単	茨 城 県	元 大子町消防団 副団長	大 森 玄 昭 (79)	男
瑞 単	茨 城 県	元 常総市消防団 副団長	瀬 高 茂 (73)	男

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別
瑞 単	茨 城 県	元 那珂市消防団 副団長	寺 門 利 昭 (74)	男
瑞 単	茨 城 県	元 城里町消防団 副団長	船 橋 渉 一 (71)	男
瑞 単	栃 木 県	元 栃木市消防団 分団長	小 林 恒 雄 (73)	男
瑞 単	栃 木 県	元 佐野市消防団 分団長	高 田 一 夫 (74)	男
瑞 単	栃 木 県	元 栗山村消防団 分団長	高 野 喜 也 (76)	男
瑞 単	栃 木 県	元 宇都宮市消防団 副団長	橋 本 裕 文 (73)	男
瑞 単	栃 木 県	元 栗山村消防団 分団長	眞 鍋 悦 男 (75)	男
瑞 小	群 馬 県	元 高崎市・安中市消 防組合 消防正監	眞 下 和 宏 (70)	男
瑞 単	群 馬 県	元 みどり市消防団 団長	井 上 和 之 (65)	男
瑞 単	群 馬 県	元 前橋市消防団 副団長	銘 木 伸 弘 (67)	男
瑞 単	群 馬 県	元 伊香保町消防団 副団長	原 崎 範 一 (72)	男
瑞 単	群 馬 県	元 大泉町消防団 分団長	山 口 善 之 (65)	男

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別
瑞 単	群 馬 県	元 館林地区消防組合 館林消防団 団長	吉 澤 祐 志 (64)	男
瑞 小	埼 玉 県	元 入間東部地区消防 組合 消防正監	大 島 英 男 (70)	男
瑞 小	埼 玉 県	元 越谷市 消防正監	尾ヶ井 勝 (70)	男
瑞 小	埼 玉 県	元 児玉郡市広域市町 村圏組合 消防正監	岡 芹 文 一 (70)	男
瑞 小	埼 玉 県	元 朝霞地区一部事務 組合 消防正監	越阪部 修 (70)	男
瑞 小	埼 玉 県	元 上尾市 消防正監	中 村 進 (70)	男
瑞 双	埼 玉 県	元 比企広域市町村圏 組合東松山消防団 団長	新 井 芳 信 (71)	男
瑞 双	埼 玉 県	元 坂戸市消防団 団長	関 口 眞 夫 (75)	男
瑞 双	埼 玉 県	元 さいたま市消防団 団長	星 野 和 夫 (82)	男
瑞 双	埼 玉 県	元 入間市消防団 団長	宮 崎 正 文 (64)	男
瑞 単	埼 玉 県	元 川口市消防団 分団長	倉 田 正 男 (73)	男
瑞 単	埼 玉 県	元 桶川市消防団 分団長	江 尻 真 美 (70)	男

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別
瑞 単	埼 玉 県	元 行田市消防団 分団長	大 塚 康 弘 (70)	男
瑞 単	埼 玉 県	元 越谷市消防団 分団長	小 林 政 三 (74)	男
瑞 単	埼 玉 県	元 秩父市消防団 副団長	篠 塚 良 一 (66)	男
瑞 単	埼 玉 県	元 久喜市消防団 副団長	高 橋 幸 男 (69)	男
瑞 単	埼 玉 県	元 草加市消防団 分団長	戸 塚 康 夫 (72)	男
瑞 単	埼 玉 県	元 熊谷市消防団 分団長	森 田 敏 一 (75)	男
瑞 小	千 葉 県	元 千葉市 消防司監	石 井 幸 一 (70)	男
瑞 単	千 葉 県	元 流山市消防団 分団長	大 熊 康 弘 (64)	男
瑞 単	千 葉 県	元 四街道市消防団 分団長	海 保 和 光 (64)	男
瑞 単	千 葉 県	元 山武市消防団 副団長	北 山 康 晃 (64)	男
瑞 単	千 葉 県	元 松戸市消防団 副団長	齋 藤 隆 (73)	男
瑞 単	千 葉 県	元 成田市消防団 分団長	佐 瀬 次 郎 (66)	男

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別
瑞 単	千 葉 県	元 我孫子市消防団 分団長	鈴木 等 (65)	男
瑞 単	千 葉 県	元 船橋市消防団 副団長	須藤 喜 一 (65)	男
瑞 単	千 葉 県	元 いすみ市消防団 副団長	高橋 聡 (64)	男
瑞 中	東 京 都	元 東京消防庁 消防總監	北村 吉 (70)	男
瑞 小	東 京 都	元 東京消防庁 消防司監	小川 一 行 (70)	男
瑞 小	東 京 都	元 東京消防庁 消防司監	加藤 秀 之 (70)	男
瑞 小	東 京 都	元 東京消防庁 消防司監	千葉 孝 之 (70)	男
瑞 小	東 京 都	元 東京消防庁 消防司監	横山 正 巳 (70)	男
瑞 双	東 京 都	元 大井消防団 団長	大場 幸 穂 (78)	男
瑞 単	東 京 都	元 羽村市消防団 団長	新井 敏 行 (62)	男
瑞 単	東 京 都	元 浅草消防団 副団長	新井 寛 (76)	男
瑞 単	東 京 都	元 福生市消防団 団長	石川 高 広 (63)	男

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別
瑞 単	東 京 都	元 向島消防団 副団長	石原 廣 次 (75)	男
瑞 単	東 京 都	元 小石川消防団 副団長	岡村 弘 安 (71)	男
瑞 単	東 京 都	元 荻窪消防団 分団長	小林 誠 (74)	男
瑞 単	東 京 都	元 練馬消防団 副団長	小宮 秀 一 (73)	男
瑞 単	東 京 都	元 小岩消防団 副団長	小宮 敏 昭 (71)	男
瑞 単	東 京 都	元 金町消防団 分団長	齊藤 藤 一 (76)	男
瑞 単	東 京 都	元 武蔵野市消防団 団長	齊藤 嘉 昭 (61)	男
瑞 単	東 京 都	元 杉並消防団 副団長	島田 嘉 明 (75)	男
瑞 単	東 京 都	元 小平市消防団 団長	筋野 明 (63)	男
瑞 単	東 京 都	元 福生市消防団 団長	瀬 舌 敏 毅 (63)	男
瑞 単	東 京 都	元 成城消防団 分団長	戸上 孝 (76)	男
瑞 単	東 京 都	元 牛込消防団 団長	中村 功 (74)	男

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別
瑞 単	東 京 都	元 荏原消防団 副団長	福田 廣 光 (67)	男
瑞 単	東 京 都	元 江戸川消防団 分団長	福 富 嘉 宣 (78)	男
瑞 単	東 京 都	元 城東消防団 副団長	星野 俊 昌 (71)	男
瑞 単	東 京 都	元 世田谷消防団 分団長	堀 江 鉄 雄 (79)	男
瑞 単	東 京 都	元 石神井消防団 副団長	見 米 秀 文 (74)	男
瑞 単	東 京 都	元 目黒消防団 副団長	水 谷 美 次 (72)	男
瑞 単	東 京 都	元 神田消防団 副団長	森 本 潔 (75)	男
瑞 単	東 京 都	元 上野消防団 副団長	山 田 哲 三 (76)	男
瑞 単	東 京 都	元 赤羽消防団 副団長	吉 井 清 (79)	男
瑞 単	東 京 都	元 田園調布消防団 分団長	渡 邇 一 永 (70)	男
瑞 小	神 奈 川 県	元 横浜市 消防正監	荒 巻 照 和 (70)	男
瑞 小	神 奈 川 県	元 相模原市 消防司監	岩 田 進 一 (70)	男

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別
瑞 小	神 奈 川 県	元 川崎市 消防司監	福 井 昭 久 (70)	男
瑞 双	神 奈 川 県	元 横浜市内消防団 団長	飯 村 勇 一 (70)	男
瑞 双	神 奈 川 県	元 横浜市内消防団 団長	石 井 正 志 (72)	男
瑞 双	神 奈 川 県	元 川崎市麻生消防団 団長	越 畑 好 夫 (73)	男
瑞 双	神 奈 川 県	元 川崎市宮前消防団 団長	杉 田 正 文 (74)	男
瑞 双	神 奈 川 県	元 茅ヶ崎市消防団 団長	長 嶋 裕 (71)	男
瑞 双	神 奈 川 県	元 川崎市多摩消防団 団長	増 田 朝 光 (71)	男
瑞 単	神 奈 川 県	元 神奈川県真鶴町消防団 団長	青 木 務 (71)	男
瑞 単	神 奈 川 県	元 藤沢市消防団 分団長	安 齋 由 雄 (78)	男
瑞 単	神 奈 川 県	元 横浜市内消防団 団長	内 田 隆 (73)	男
瑞 単	神 奈 川 県	元 平塚市消防団 分団長	加 藤 次 克 (73)	男
瑞 単	神 奈 川 県	元 鎌倉市消防団 分団長	河 内 勲 (75)	男

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別
瑞 単	神奈川県	元 横浜市緑消防団 分団長	河 原 徳 治 (72)	男
瑞 単	神奈川県	元 逗子市消防団 分団長	菊 池 肇 (77)	男
瑞 単	神奈川県	元 横浜市保土ヶ谷消防団 副団長	國 村 敏 男 (74)	男
瑞 単	神奈川県	元 横浜市都筑消防団 団長	佐 野 芳 晴 (69)	男
瑞 単	神奈川県	元 横須賀市消防団 分団長	武 藤 辰 夫 (72)	男
瑞 単	神奈川県	元 川崎市高津消防団 団長	持 田 稔 (70)	男
瑞 小	新潟県	元 新潟市 消防司監	米 田 修 (70)	男
瑞 双	新潟県	元 阿賀町消防団 団長	阿 部 信 裕 (70)	男
瑞 双	新潟県	元 南魚沼市消防団 団長	井 春 文 (69)	男
瑞 双	新潟県	元 胎内市消防団 団長	河 内 修 一 (70)	男
瑞 単	新潟県	元 新発田市消防団 団長	伊 藤 充 (65)	男
瑞 単	新潟県	元 新潟市消防団 分団長	大 嶋 喜 芳 (71)	男

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別
瑞 単	新潟県	元 加茂市消防団 副団長	小 柳 昌 影 (83)	男
瑞 単	新潟県	元 上越市消防団 分団長	金 子 秀 和 (73)	男
瑞 単	新潟県	元 柏崎市消防団 団長	須 田 千佳雄 (68)	男
瑞 単	新潟県	元 新潟市消防団 団長	高 橋 潤 一 (68)	男
瑞 単	新潟県	元 津南町消防団 団長	滝 沢 満 春 (68)	男
瑞 単	新潟県	元 村上市消防団 団長	中 山 卯一郎 (65)	男
瑞 単	新潟県	元 三条市消防団 副団長	西 方 壯 一 (68)	男
瑞 単	新潟県	元 新潟県粟島浦村消防団 団長	松 浦 武 次 (72)	男
瑞 単	新潟県	元 糸魚川市消防団 副団長	山 岸 一 範 (71)	男
瑞 単	新潟県	元 新潟市消防団 副分団長	山 口 正 (75)	男
瑞 単	新潟県	元 佐渡消防事務組合 真野消防団 団長	山 田 昭 (80)	男
瑞 単	富山県	元 射水市消防団 副団長	加 治 定 弘 (71)	男

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別
瑞 単	富山県	元 富山市消防団 副団長	金 木 重 三 (71)	男
瑞 単	富山県	元 滑川市消防団 団長	桐 澤 栄 一 (68)	男
瑞 単	富山県	元 射水市消防団 副団長	竹 中 毅 (72)	男
瑞 単	富山県	元 黒部市消防団 分団長	田 中 秀 志 (79)	男
瑞 単	富山県	元 富山市消防団 副団長	田 中 保 茂 (71)	男
瑞 単	富山県	元 水見市消防団 副団長	山 口 勝 己 (70)	男
瑞 単	富山県	元 高岡市消防団 分団長	中 崎 光 男 (76)	男
瑞 単	富山県	元 南砺市消防団 副団長	中 山 清 貴 (73)	男
瑞 単	富山県	元 朝日町消防団 分団長	廣 幡 悟 (71)	男
瑞 単	富山県	元 魚津市消防団 副分団長	南 塚 敏 雄 (85)	男
瑞 単	富山県	元 富山市消防団 副団長	山 下 信 市 (69)	男
瑞 単	石川県	元 津幡町消防団 団長	加茂川 寛 人 (74)	男

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別
瑞 単	石川県	元 宝達志水町消防団 分団長	坂 本 博 (76)	男
瑞 単	石川県	元 能登町消防団 副団長	新 山 鉄 夫 (70)	男
瑞 単	石川県	元 七尾市消防団 副団長	須 崎 正 一 (71)	男
瑞 単	福井県	元 鯖江・丹生消防組合越前消防団 団長	関 谷 孝 一 (60)	男
瑞 単	福井県	元 大野市消防団 団長	多 田 繁 男 (73)	男
瑞 単	福井県	元 福井市消防団 分団長	塚 谷 義 幸 (70)	男
瑞 単	福井県	元 敦賀美方消防組合 敦賀消防団 分団長	増 田 彰 一 (66)	男
瑞 単	福井県	元 福井市消防団 分団長	山 口 武津雄 (70)	男
瑞 単	福井県	元 永平寺町消防団 副団長	吉 田 秀 俊 (66)	男
瑞 単	山梨県	元 早川町消防団 分団長	大 野 元 (76)	男
瑞 単	山梨県	元 上野原市消防団 団長	長 田 秋 男 (65)	男
瑞 単	山梨県	元 南アルプス市消防団 副団長	小 林 岩 美 (68)	男

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別
瑞 単	山 梨 県	元 甲斐市消防団 副団長	横 森 弘 光 (66)	男
瑞 単	山 梨 県	元 甲府市消防団 副団長	横 山 賢 賢 (65)	男
瑞 小	長 野 県	元 佐久広域連合 消防正監	油 井 明 男 (70)	男
瑞 単	長 野 県	元 佐久市消防団 団長	上 原 巧 巧 (61)	男
瑞 単	長 野 県	元 大岡村消防団 分団長	内 山 和 文 (67)	男
瑞 単	長 野 県	元 長野市消防団 分団長	小 池 宏 明 (64)	男
瑞 単	長 野 県	元 栄村消防団 団長	油 科 浩 浩 (60)	男
瑞 単	長 野 県	元 塩尻市消防団 団長	吉 池 昇 一 (62)	男
瑞 双	岐 阜 県	元 中津川市消防団 団長	小 倉 主 税 (68)	男
瑞 双	岐 阜 県	元 飛騨市消防団 団長	福 義 博 博 (74)	男
瑞 単	岐 阜 県	元 瑞浪市消防団 副団長	愛 知 忠 之 (64)	男
瑞 単	岐 阜 県	元 高山市消防団 副団長	栗 原 藤 義 (64)	男

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別
瑞 単	岐 阜 県	元 各務原市消防団 団長	横 村 晃 雄 (64)	男
瑞 単	岐 阜 県	元 下呂市消防団 団長	大 森 章 弘 (64)	男
瑞 単	岐 阜 県	元 岐阜市南消防団 副団長	河 口 安 男 (73)	男
瑞 単	岐 阜 県	元 海津市消防団 団長	木 村 清 貴 (64)	男
瑞 単	岐 阜 県	元 岐阜市中消防団 副団長	近 藤 繁 夫 (74)	男
瑞 小	静 岡 県	元 浜松市 消防司監	牧 正 田 稔 (70)	男
瑞 単	静 岡 県	元 富士市消防団 分団長	市 川 正 人 (67)	男
瑞 単	静 岡 県	元 沼津市消防団 分団長	梅 原 誠 二 (76)	男
瑞 単	静 岡 県	元 静岡市消防団 副団長	海 野 昌 郎 (69)	男
瑞 単	静 岡 県	元 沼津市消防団 分団長	杉 山 泰 之 (78)	男
瑞 単	静 岡 県	元 三島市消防団 副団長	増 島 工 匠 (68)	男
瑞 単	静 岡 県	元 静岡市消防団 分団長	望 月 博 博 (76)	男

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別
瑞 小	愛 知 県	元 尾三消防組合 消防正監	杉 浦 敏 春 (70)	男
瑞 小	愛 知 県	元 名古屋市 消防正監	三 輪 弘 光 (70)	男
瑞 双	愛 知 県	元 名古屋市植田北消防団 団長	浅 井 宏 隆 (76)	男
瑞 双	愛 知 県	元 あま市消防団 団長	石 田 隆 義 (73)	男
瑞 双	愛 知 県	元 豊田市 消防正監	鈴 木 博 博 (70)	男
瑞 双	愛 知 県	元 名古屋市中小田井消防団 団長	辻 正 弘 (76)	男
瑞 双	愛 知 県	元 一宮市消防団 団長	野 田 昭 徳 (74)	男
瑞 単	愛 知 県	元 岡崎市連尺消防団 団長	太 田 章 弘 (69)	男
瑞 単	愛 知 県	元 名古屋市中村消防団 団長	奥 村 義 夫 (76)	男
瑞 単	愛 知 県	元 名古屋市広見消防団 団長	辻 見 正 博 (75)	男
瑞 単	愛 知 県	元 名古屋市栄消防団 団長	小 島 康 二 (74)	男
瑞 単	愛 知 県	元 名古屋市中川消防団 団長	田 中 秀 樹 (74)	男

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別
瑞 単	愛 知 県	元 名古屋市東志賀消防団 団長	廣 川 俊 樹 (78)	男
瑞 双	三 重 県	元 名張市消防団 団長	岩 木 政 己 (71)	男
瑞 双	三 重 県	元 熊野市消防団 団長	曲 田 正 (75)	男
瑞 双	三 重 県	元 川越町消防団 団長	水 越 幸 夫 (72)	男
瑞 単	三 重 県	元 津市消防団 副団長	今 井 徹 (77)	男
瑞 単	三 重 県	元 四日市市消防団 副団長	鶴 野 正 義 (79)	男
瑞 単	三 重 県	元 亀山市消防団 副団長	小 川 栄 一 (73)	男
瑞 単	三 重 県	元 御浜町消防団 分団長	福 田 輝 男 (80)	男
瑞 単	三 重 県	元 鳥羽市消防団 副団長	前 田 康 吉 (70)	男
瑞 双	滋 賀 県	元 甲良町消防団 団長	佐々木 清 一 (70)	男
瑞 双	滋 賀 県	元 大津市消防団 団長	八 代 進 (74)	男
瑞 単	滋 賀 県	元 米原市消防団 団長	戸 田 寛 彦 (65)	男

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別
瑞 単	滋 賀 県	元 豊郷町消防団 副団長	中 川 捨次郎 (67)	男
瑞 単	滋 賀 県	元 大津市消防団 副団長	松 田 万 石 (65)	男
瑞 小	京 都 府	元 京都市 消防司監	長谷川 純 (70)	男
瑞 双	京 都 府	元 京都市 消防正監	岡 田 照 雄 (70)	男
瑞 双	京 都 府	元 南丹市消防団 副団長	野々口 志 朗 (72)	男
瑞 双	京 都 府	元 京都市 消防正監	前 田 利 正 (70)	男
瑞 単	京 都 府	元 京都市左京消防団 分団長	上 手 弘 光 (80)	男
瑞 単	京 都 府	元 京丹後市消防団 団長	道 家 徹 司 (64)	男
瑞 単	京 都 府	元 京都市下京消防団 分団長	中 田 泰 次 (81)	男
瑞 単	京 都 府	元 京都市左京消防団 分団長	野 津 和 雄 (82)	男
瑞 単	京 都 府	元 京都市下京消防団 分団長	松 井 勉 (76)	男
瑞 小	大 阪 府	元 豊中市 消防正監	谷 口 伸 夫 (70)	男

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別
瑞 小	大 阪 府	元 吹田市 消防正監	松 中 唯 人 (70)	男
瑞 小	大 阪 府	元 茨木市 消防正監	山 本 雅 之 (70)	男
瑞 双	大 阪 府	元 泉佐野市消防団 団長	向 井 正 (75)	男
瑞 単	大 阪 府	元 豊中市消防団 分団長	井 原 幸 雄 (73)	男
瑞 単	大 阪 府	元 大阪府河内町消防団 副団長	奥 野 保 夫 (74)	男
瑞 単	大 阪 府	元 和泉市消防団 分団長	小 寺 一 明 (70)	男
瑞 単	大 阪 府	元 大阪府忠岡町消防団 副団長	酒 井 雅 博 (75)	男
瑞 単	大 阪 府	元 泉南市消防団 副団長	辻 野 耕 司 (72)	男
瑞 単	大 阪 府	元 交野市消防団 副団長	西 川 俊 夫 (74)	男
瑞 単	大 阪 府	元 大阪狭山市消防団 分団長	花 谷 修 (87)	男
瑞 単	大 阪 府	元 箕面市消防団 副団長	林 利 昭 (65)	男
瑞 単	大 阪 府	元 寝屋川市消防団 副団長	森 本 郁 生 (72)	男

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別
瑞 小	兵 庫 県	元 北はりま消防組合 消防正監	岸 本 耕 一 (70)	男
瑞 小	兵 庫 県	元 神戸市 消防司監	嶋 秀 穂 (70)	男
瑞 双	兵 庫 県	元 明石市消防団 団長	安 達 哲 哉 (70)	男
瑞 双	兵 庫 県	元 豊岡市豊岡消防団 団長	太 田 克 己 (74)	男
瑞 双	兵 庫 県	元 明石市 消防正監	岡 田 教 宏 (70)	男
瑞 双	兵 庫 県	元 豊岡市日高消防団 団長	成 田 安 浩 (64)	男
瑞 双	兵 庫 県	元 赤穂市消防団 団長	吉 田 清 光 (72)	男
瑞 単	兵 庫 県	元 高砂市消防団 分団長	石 原 勝 広 (64)	男
瑞 単	兵 庫 県	元 高砂市消防団 団長	伊 藤 定 雄 (66)	男
瑞 単	兵 庫 県	元 丹波篠山市消防団 団長	山 端 幸 生 (65)	男
瑞 単	兵 庫 県	元 豊岡市城崎消防団 副団長	中 井 博 文 (73)	男
瑞 単	兵 庫 県	元 洲本市消防団 団長	中 原 章 晴 (66)	男

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別
瑞 単	兵 庫 県	元 宝塚市消防団 分団長	二 井 久 和 (64)	男
瑞 単	兵 庫 県	元 香美町消防団 団長	西 村 功 (65)	男
瑞 単	兵 庫 県	元 明石市消防団 副団長	橋 本 敏 光 (71)	男
瑞 単	兵 庫 県	元 尼崎市消防団 分団長	樋 口 勝 朗 (68)	男
瑞 単	兵 庫 県	元 洲本市消防団 分団長	不 動 方 義 (67)	男
瑞 単	兵 庫 県	元 姫路市安富町消防団 副団長	細 野 雅 一 (64)	男
瑞 単	兵 庫 県	元 西宮市消防団 分団長	森 本 安 雄 (75)	男
瑞 単	兵 庫 県	元 神戸市垂水消防団 副団長	八 木 耕 一 (73)	男
瑞 単	兵 庫 県	元 姫路市飾磨消防団 分団長	吉 田 達 生 (71)	男
瑞 双	奈 良 県	元 桜井市消防団 団長	井 上 桂 輝 (74)	男
瑞 双	奈 良 県	元 東吉野村消防団 団長	辻 本 雅 則 (68)	男
瑞 双	奈 良 県	元 奈良市 消防正監	徳 岡 泰 博 (70)	男

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別
瑞 双	奈 良 県	元 高取町消防団 団長	中 村 信 廣 (78)	男
瑞 双	奈 良 県	元 王寺町消防団 団長	西 谷 浩 (72)	男
瑞 単	奈 良 県	元 奈良市消防団 分団長	大 島 國 裕 (76)	男
瑞 単	奈 良 県	元 吉野町消防団 副団長	島 秀 次 (65)	男
瑞 単	奈 良 県	元 川上村消防団 副団長	下 西 良 光 (79)	男
瑞 単	奈 良 県	元 山辺広域行政事務 組合三宅消防団 副団長	竹 内 眞 (73)	男
瑞 単	奈 良 県	元 広陵町消防団 団長	西 田 昌 功 (71)	男
瑞 単	奈 良 県	元 御所市消防団 副団長	吉 川 久 和 (70)	男
瑞 双	和 歌 山 県	元 紀の川市消防団 団長	井 尻 智 久 (70)	男
瑞 双	和 歌 山 県	元 美浜町消防団 団長	久 保 博 巳 (67)	男
瑞 単	和 歌 山 県	元 橋本市消防団 副団長	石 橋 正 次 (75)	男
瑞 単	和 歌 山 県	元 九度山町消防団 副団長	國 清 司 (72)	男

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別
瑞 単	和 歌 山 県	元 新宮市消防団 副団長	岡 根 良 安 (74)	男
瑞 単	和 歌 山 県	元 かつらぎ町消防団 団長	木多浦 均 (65)	男
瑞 単	和 歌 山 県	元 串本町消防団 副団長	交 田 建 二 (65)	男
瑞 単	和 歌 山 県	元 白浜町消防団 分団長	清 水 寛 (70)	男
瑞 単	和 歌 山 県	元 和歌山市消防団 団長	白 樫 秀 樹 (76)	男
瑞 単	和 歌 山 県	元 日高町消防団 団長	直 川 豊 一 (68)	男
瑞 単	鳥 取 県	元 八頭町消防団 副団長	安 藤 博 昭 (68)	男
瑞 単	鳥 取 県	元 三朝町消防団 分団長	竹 澤 重 己 (70)	男
瑞 単	鳥 取 県	元 若桜町消防団 副団長	淵 見 龍 彦 (70)	男
瑞 双	島 根 県	元 雲南市消防団 団長	朝 山 猛 (76)	男
瑞 双	島 根 県	元 江津市消防団 団長	佐々木 孝 徳 (68)	男
瑞 単	島 根 県	元 出雲市消防団 副団長	石 飛 孝 夫 (72)	男

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別
瑞 単	島 根 県	元 安来市消防団 副団長	神 庭 良 和 (69)	男
瑞 単	島 根 県	元 浜田市消防団 副団長	熊 谷 道 利 (70)	男
瑞 単	島 根 県	元 出雲市消防団 副団長	須 山 俊 二 (70)	男
瑞 単	島 根 県	元 浜田市消防団 副団長	渡 邊 庄 信 (70)	男
瑞 双	岡 山 県	元 津山市消防団 団長	川 端 茂 (76)	男
瑞 双	岡 山 県	元 新見市消防団 団長	小 林 晃 (68)	男
瑞 単	岡 山 県	元 鏡野町消防団 団長	赤 坂 佳 計 (68)	男
瑞 単	岡 山 県	元 岡山市消防団 副団長	内 山 博 雄 (71)	男
瑞 単	岡 山 県	元 倉敷市消防団 副団長	大 中 元 晴 (71)	男
瑞 単	岡 山 県	元 倉敷市消防団 副団長	織 田 勝 年 (70)	男
瑞 単	岡 山 県	元 岡山市消防団 分団長	笠 井 巧 (68)	男
瑞 単	岡 山 県	元 岡山市消防団 団長	岸 宗 一 (72)	男

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別
瑞 単	岡 山 県	元 玉野市消防団 分団長	山 中 雅 夫 (72)	男
瑞 単	岡 山 県	元 倉敷市消防団 副団長	西 知 三 (70)	男
瑞 単	岡 山 県	元 総社市消防団 分団長	拜 原 一 雄 (67)	男
瑞 単	岡 山 県	元 美作市消防団 副団長	春 名 貴 之 (67)	男
瑞 単	岡 山 県	元 真庭市消防団 副団長	安 田 祐 二 (69)	男
瑞 単	岡 山 県	元 真庭市消防団 副団長	山 員 章 (65)	男
瑞 単	岡 山 県	元 真庭市消防団 分団長	山 口 知 昭 (64)	男
瑞 単	岡 山 県	元 新見市消防団 分団長	山 崎 一 成 (64)	男
瑞 双	広 島 県	元 備北地区消防組合 消防正監	新 川 康 正 (70)	男
瑞 双	広 島 県	元 江田島市消防団 団長	高 止 弘 (70)	男
瑞 単	広 島 県	元 竹原市消防団 副分団長	荒 谷 雅 夫 (71)	男
瑞 単	広 島 県	元 廿日市市消防団 副団長	石 田 芳 一 (71)	男

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別
瑞 単	広 島 県	元 熊野町消防団 副分団長	泉 政 治 (76)	男
瑞 単	広 島 県	元 尾道市消防団 副分団長	恵 谷 幸 郎 (73)	男
瑞 単	広 島 県	元 三原市消防団 副団長	片 廣 孝 志 (71)	男
瑞 単	広 島 県	元 呉市消防団 分団長	茅 本 吉 生 (85)	男
瑞 単	広 島 県	元 広島市佐伯消防団 分団長	川 本 文 三 (75)	男
瑞 単	広 島 県	元 東広島市消防団 分団長	木 下 秀 喜 (70)	男
瑞 単	広 島 県	元 安芸太田町消防団 分団長	栗 栖 道 雄 (70)	男
瑞 単	広 島 県	元 広島市安芸消防団 団長	小鷹狩 修 (70)	男
瑞 単	広 島 県	元 安芸高田市消防団 副団長	境 江 方 暢 (70)	男
瑞 単	広 島 県	元 広島市中消防団 団長	二反田 横 樹 (71)	男
瑞 単	広 島 県	元 呉市消防団 副団長	東 哲 男 (72)	男
瑞 単	広 島 県	元 三原市消防団 副団長	藤 川 敏 和 (70)	男

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別
瑞 単	広 島 県	元 大竹市消防団 副団長	村 本 都 年 (70)	男
瑞 単	広 島 県	元 広島市安佐北消防 分団長	森 末 月 夫 (75)	男
瑞 単	広 島 県	元 東広島市消防団 分団長	森 田 純 二 (70)	男
瑞 単	広 島 県	元 甲奴町消防団 副団長	矢 城 茂 夫 (70)	男
瑞 単	広 島 県	元 三次市消防団 副団長	山 口 勝 則 (70)	男
瑞 単	広 島 県	元 呉市消防団 分団長	山 下 孝 規 (72)	男
瑞 双	山 口 県	元 下関市消防団 団長	岡 崎 吉 治 (74)	男
瑞 双	山 口 県	元 上関町消防団 団長	村 上 博 (83)	男
瑞 単	山 口 県	元 周防大島町消防団 副団長	有 川 利 美 (75)	男
瑞 単	山 口 県	元 山口市消防団 分団長	阿 武 賢 一 (74)	男
瑞 単	山 口 県	元 萩市消防団 団長	木 村 計 司 (75)	男
瑞 単	山 口 県	元 萩市消防団 分団長	木 村 清 次 (75)	男

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別
瑞 単	山 口 県	元 周防大島町消防団 副団長	久保田 男 治 (73)	男
瑞 単	山 口 県	元 岩国市消防団 分団長	白 木 光 夫 (76)	男
瑞 単	山 口 県	元 山口市消防団 副団長	田 中 政 昭 (81)	男
瑞 単	山 口 県	元 岩国市消防団 分団長	菱 田 満 (75)	男
瑞 単	山 口 県	元 下関市消防団 分団長	鯉 越 義 彦 (72)	男
瑞 単	山 口 県	元 岩国市消防団 分団長	向 原 一 芳 (75)	男
瑞 単	山 口 県	元 美祿市消防団 分団長	山 中 日出男 (72)	男
瑞 単	山 口 県	元 周南市消防団 分団長	山 本 慎 辞 (73)	男
瑞 単	山 口 県	元 萩市消防団 副団長	吉 村 泰 憲 (76)	男
瑞 双	徳 島 県	元 神山町消防団 団長	井 住 正 三 (72)	男
瑞 双	徳 島 県	元 美馬市消防団 団長	武 田 一 比 古 (76)	男
瑞 双	徳 島 県	元 牟岐町消防団 団長	平 山 正 則 (74)	男

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別
瑞 双	徳 島 県	元 三好市東祖谷消防 団長	森 東 洋 彦 (70)	男
瑞 単	徳 島 県	元 吉野川市消防団 副団長	杉 山 浩 二 (70)	男
瑞 単	徳 島 県	元 阿南市消防団 副団長	高 島 正 明 (65)	男
瑞 単	徳 島 県	元 阿南市消防団 団長	原 耕 (65)	男
瑞 単	徳 島 県	元 阿南市消防団 分団長	松 田 新 治 (65)	男
瑞 単	徳 島 県	元 那賀町消防団 団長	山 原 鐵 雄 (76)	男
瑞 双	香 川 県	元 三木町消防団 団長	多 田 等 (70)	男
瑞 双	香 川 県	元 小豆島町消防団 団長	橋 本 健 一 (71)	男
瑞 双	香 川 県	元 観音寺市消防団 団長	矢 野 幹 和 (72)	男
瑞 単	香 川 県	元 丸亀市消防団 副団長	五 古 森 信 幸 (74)	男
瑞 単	香 川 県	元 さぬき市消防団 副団長	大 西 正 (71)	男
瑞 単	香 川 県	元 高松市消防団 副団長	岡 田 敬 司 (67)	男

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別
瑞 単	香 川 県	元 高松市消防団 副団長	岡 田 定 雄 (69)	男
瑞 単	香 川 県	元 三豊市消防団 副団長	角 田 哲 也 (70)	男
瑞 単	香 川 県	元 三豊市消防団 団長	塩 田 清 勝 (75)	男
瑞 単	香 川 県	元 丸亀市消防団 副団長	福 濱 信 行 (74)	男
瑞 単	香 川 県	元 東かがわ市消防団 副団長	藤 井 敏 明 (75)	男
瑞 単	香 川 県	元 高松市消防団 副団長	藤 田 昭 彦 (64)	男
瑞 単	愛 媛 県	元 松山市消防団 副団長	相 原 啓 三 (68)	男
瑞 単	愛 媛 県	元 今治市消防団 分団長	有 田 豊 (86)	男
瑞 単	愛 媛 県	元 長浜町消防団 分団長	井 上 幸 一 (83)	男
瑞 単	愛 媛 県	元 八幡浜市消防団 副団長	菊 池 葉 草 (65)	男
瑞 単	愛 媛 県	元 松山市消防団 分団長	玉 木 勝 典 (66)	男
瑞 単	愛 媛 県	元 西条市消防団 分団長	丹 義 宏 (67)	男

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別
瑞 単	愛 媛 県	元 四国中央市消防団 副団長	寺 尾 克 紀 (65)	男
瑞 単	愛 媛 県	元 広田村消防団 分団長	土 井 孝 幸 (71)	男
瑞 単	愛 媛 県	元 新居浜市消防団 分団長	藤 田 正 彦 (65)	男
瑞 単	愛 媛 県	元 松山市消防団 分団長	森 俊 雄 (65)	男
瑞 双	高 知 県	元 四万十市消防団 団長	上 岡 伸 郎 (78)	男
瑞 双	高 知 県	元 香南市赤岡消防団 団長	久 保 壽 男 (77)	男
瑞 単	高 知 県	元 いの町消防団 副団長	小 松 緑 (72)	男
瑞 単	高 知 県	元 高知市消防団 分団長	徳 弘 頼 昭 (74)	男
瑞 単	高 知 県	元 南国市消防団 分団長	中 内 功 (74)	男
瑞 単	高 知 県	元 仁淀川町消防団 分団長	西 森 信 彦 (65)	男
瑞 単	高 知 県	元 香美市消防団 副団長	萩 野 憲 生 (67)	男
瑞 単	高 知 県	元 土佐市消防団 副団長	明 神 正 隆 (64)	男

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別
瑞 単	高 知 県	元 高幡消防組合須崎 消防団 分団長	山 崎 啓 作 (68)	男
瑞 小	福 岡 県	元 春日・大野城・那 珂川消防組合 消防正監	俵 敷 安 彦 (70)	男
瑞 小	福 岡 県	元 福岡市 消防正監	藤 原 謙 治 (70)	男
瑞 双	福 岡 県	元 宮若市消防団 団長	梶 原 貞 人 (72)	男
瑞 双	福 岡 県	元 福岡市早良消防団 団長	角 徹 (70)	男
瑞 双	福 岡 県	元 小都市消防団 団長	田 中 保 夫 (70)	男
瑞 双	福 岡 県	元 菊田町消防団 団長	山 田 宗 春 (74)	男
瑞 単	福 岡 県	元 みやこ町消防団 副団長	有 久 誠 (76)	男
瑞 単	福 岡 県	元 北九州市小倉南消 防団 分団長	磯 部 弘 (78)	男
瑞 単	福 岡 県	元 福岡市水上消防団 副団長	坂 谷 正 信 (75)	男
瑞 単	福 岡 県	元 嘉麻市消防団 分団長	大 塚 壽 丸 (72)	男
瑞 単	福 岡 県	元 小竹町消防団 分団長	加 藤 喜 久 生 (69)	男

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別
瑞 単	福 岡 県	元 福岡市博多消防団 分団長	小 西 勝 三 (76)	男
瑞 単	福 岡 県	元 嘉麻市消防団 分団長	小 沼 等 (72)	男
瑞 単	福 岡 県	元 築上町消防団 分団長	白 川 義 雄 (76)	男
瑞 単	福 岡 県	元 みやま市消防団 団長	菅 原 竜 介 (64)	男
瑞 単	福 岡 県	元 豊前市消防団 副団長	園 田 和 典 (71)	男
瑞 単	福 岡 県	元 宮若市消防団 分団長	原 田 慎 介 (71)	男
瑞 単	福 岡 県	元 福智町消防団 分団長	福 田 俊 彦 (69)	男
瑞 単	福 岡 県	元 柳川市消防団 団長	湧 上 省 治 (64)	男
瑞 単	福 岡 県	元 宮若市消防団 副団長	松 尾 利 實 (75)	男
瑞 単	福 岡 県	元 みやこ町消防団 副団長	山 下 行 希 (71)	男
瑞 単	福 岡 県	元 行橋市消防団 分団長	吉 竹 孝 則 (70)	男
瑞 双	佐 賀 県	元 佐賀市消防団 団長	合 満 進 (72)	男

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別
瑞 双	佐 賀 県	元 多久市消防団 団長	陣 内 成 和 (71)	男
瑞 双	佐 賀 県	元 唐津市消防団 団長	松 尾 祐 治 (65)	男
瑞 双	佐 賀 県	元 有田町消防団 団長	宮 崎 一 樹 (67)	男
瑞 単	佐 賀 県	元 鳥栖市消防団 分団長	飛 松 忠 文 (65)	男
瑞 単	佐 賀 県	元 武雄市消防団 分団長	中 村 五十六 (67)	男
瑞 単	佐 賀 県	元 伊万里市消防団 分団長	馬 場 節 男 (68)	男
瑞 単	佐 賀 県	元 太良町消防団 副団長	柳 瀬 伸 博 (64)	男
瑞 双	長 崎 県	元 東彼杵町消防団 団長	有 川 未 好 (68)	男
瑞 双	長 崎 県	元 長崎市消防団 団長	佐々木 眞登己 (72)	男
瑞 双	長 崎 県	元 西海市消防団 団長	濱 上 肇 (77)	男
瑞 双	長 崎 県	元 時津町消防団 団長	峰 善 行 (71)	男
瑞 双	長 崎 県	元 平戸市消防団 団長	森 能 範 (71)	男

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別
瑞 双	長 崎 県	元 大村市消防団 団長	山 浦 弘 之 (68)	男
瑞 単	長 崎 県	元 壱岐市消防団 団長	岩 永 章 (71)	男
瑞 単	長 崎 県	元 長崎市消防団 分団長	岡 部 栄 一 (75)	男
瑞 単	長 崎 県	元 佐世保市消防団 副分団長	田 口 満 (85)	男
瑞 単	長 崎 県	元 福江市消防団 副分団長	竹 田 昇 (82)	男
瑞 単	長 崎 県	元 佐世保市消防団 副団長	堤 康 隆 (70)	男
瑞 単	長 崎 県	元 対馬市消防団 副団長	津 留 史 好 (66)	男
瑞 単	長 崎 県	元 五島市消防団 分団長	橋 口 卓 臣 (75)	男
瑞 単	長 崎 県	元 長崎市消防団 副団長	濱 崎 健 吾 (71)	男
瑞 単	長 崎 県	元 鷹島町消防団 副分団長	村 山 祐 廣 (82)	男
瑞 単	長 崎 県	元 小値賀町消防団 団長	山 崎 忠 雄 (71)	男
瑞 単	長 崎 県	元 佐世保市消防団 副団長	山 田 達 美 (71)	男

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別
瑞 小	熊 本 県	元 八代広域行政事務 組合 消防正監	小 島 秀 昭 (70)	男
瑞 小	熊 本 県	元 熊本市 消防正監	宮 原 禮 二 (70)	男
瑞 双	熊 本 県	元 玉東町消防団 団長	小 山 省 三 (70)	男
瑞 双	熊 本 県	元 小国町消防団 団長	松 野 英 一 (67)	男
瑞 双	熊 本 県	元 あさぎり町消防団 団長	溝 辺 敬 志 (64)	男
瑞 双	熊 本 県	元 津奈木町消防団 団長	山 口 武 久 (65)	男
瑞 単	熊 本 県	元 天草市消防団 副団長	尾 田 住 一 (64)	男
瑞 単	熊 本 県	元 東陽村消防団 団長	木 村 政 直 (75)	男
瑞 単	熊 本 県	元 熊本市消防団 副分団長	坂 本 啓 二 (77)	男
瑞 単	熊 本 県	元 芦北町消防団 副団長	濱 本 義 則 (67)	男
瑞 単	熊 本 県	元 山都町消防団 団長	山 口 高 則 (64)	男
瑞 単	熊 本 県	元 苓北町消防団 団長	山 本 毅 人 (81)	男

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別
瑞 単	熊 本 県	元 熊本市消防団 副分団長	和 田 貞 介 (76)	男
瑞 双	大 分 県	元 豊後大野市消防団 団長	近 藤 光 文 (70)	男
瑞 単	大 分 県	元 大分市消防団 分団長	朝束野 清 (75)	男
瑞 単	大 分 県	元 日田市消防団 副団長	綾 垣 新 市 (68)	男
瑞 単	大 分 県	元 千歳村消防団 分団長	恵 藤 正 成 (68)	男
瑞 単	大 分 県	元 別府市消防団 分団長	小 川 健 一 (76)	男
瑞 単	大 分 県	元 玖珠町消防団 分団長	梶 原 正 純 (68)	男
瑞 単	大 分 県	元 宇佐市消防団 分団長	公 原 義 光 (71)	男
瑞 単	大 分 県	元 大分市消防団 分団長	佐 島 政 廣 (75)	男
瑞 単	大 分 県	元 九重町消防団 副団長	菅 家 行 敏 (65)	男
瑞 単	大 分 県	元 中津市消防団 副団長	田 上 文 利 (71)	男
瑞 単	大 分 県	元 臼杵市消防団 分団長	前 田 勝 雅 (66)	男

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別
瑞 単	宮 崎 県	元 宮崎市消防団 団長	尾 中 代 博 (81)	男
瑞 単	宮 崎 県	元 小林市消防団 副団長	西 上 隆 (72)	男
瑞 単	宮 崎 県	元 小林市消防団 副団長	森 田 文 雄 (64)	男
瑞 単	宮 崎 県	元 宮崎市消防団 副団長	渡 部 道 男 (65)	男
瑞 双	鹿 児 島 県	元 垂水市消防団 団長	川 畑 正 安 (74)	男
瑞 双	鹿 児 島 県	元 霧島市消防団 団長	福 永 孝 學 (76)	男
瑞 双	鹿 児 島 県	元 さつま町消防団 団長	丸 尾 省 吾 (69)	男
瑞 双	鹿 児 島 県	元 南九州市消防団 団長	本 門 芳 太郎 (79)	男
瑞 双	鹿 児 島 県	元 日置市消防団 団長	山 里 一 幸 (75)	男
瑞 単	鹿 児 島 県	元 鹿児島市消防団 副分団長	曉 勝 志 (78)	男
瑞 単	鹿 児 島 県	元 肝付町消防団 副団長	今 井 幸 雄 (74)	男
瑞 単	鹿 児 島 県	元 鹿児島市消防団 副分団長	上 村 利 弘 (77)	男

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別
瑞 単	鹿 児 島 県	元 霧島市消防団 副団長	迫 重 博 (69)	男
瑞 単	鹿 児 島 県	元 南さつま市消防団 副団長	堀 屋 義 明 (72)	男
瑞 単	鹿 児 島 県	元 日置市消防団 副団長	重 水 賢 治 (66)	男
瑞 単	鹿 児 島 県	元 いちき串木野市消防団 分団長	竹之下 直 正 (76)	男
瑞 単	鹿 児 島 県	元 南九州市消防団 副団長	仁田尾 三 男 (76)	男
瑞 単	鹿 児 島 県	元 鹿屋市消防団 分団長	野 頭 宏 幸 (77)	男
瑞 単	鹿 児 島 県	元 鹿屋市消防団 副団長	松 下 孝 志 (72)	男
瑞 単	鹿 児 島 県	元 鹿児島市消防団 分団長	南 行 博 (74)	男
瑞 単	鹿 児 島 県	元 垂水市消防団 分団長	和 田 輝 明 (72)	男
瑞 単	沖 縄 県	元 うるま市消防団 副団長	阿波根 常 雄 (68)	男
瑞 双	東 京 都	元 消防庁予防課 危険物保安室長	吉 村 修 (74)	男
旭 双	福 島 県	現 (一社)福島県消防 設備協会 会長	志 賀 義 平 (73)	男

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別
旭 双	奈 良 県	現 (一社)奈良県防 災安全協会 副会長	大 西 宏 和 (72)	男
旭 双	島 根 県	現 島根県女性防火・ 防災クラブ連絡協 議会 会長	山 口 洋 枝 (70)	女
旭 双	東 京 都	元 (一社)日本消防放 水器具工業会 会長	村 上 善 一 (71)	男



松本総務大臣による式辞
(春の叙勲伝達式)



松本総務大臣から受章者代表への勲記・勲章伝達
(春の叙勲伝達式)



原消防庁長官による式辞
(春の褒章伝達式)

令和6年春の褒章受章者名簿（消防関係）

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名（年齢）	性別
藍 綬	北 海 道	現 北見地区消防組合 留辺蘂消防団 副団長	東海林 和 善 (69)	男
藍 綬	青 森 県	現 鶴田町消防団 団長	下山 正 彦 (63)	男
藍 綬	秋 田 県	現 大潟村消防団 分団長	工 藤 和 博 (64)	男
藍 綬	山 形 県	現 白鷹町消防団 副団長	児 玉 秀 朗 (52)	男
藍 綬	山 形 県	現 鶴岡市消防団 副団長	高 橋 清 (52)	男
藍 綬	山 形 県	現 山形市消防団 副団長	山口 清 志 (70)	男
藍 綬	福 島 県	現 二本松市消防団 団長	菅 野 善 昭 (68)	男
藍 綬	福 島 県	現 南相馬市消防団 副団長	高 野 兄 一 (65)	男
藍 綬	福 島 県	現 会津若松市消防団 副団長	高 野 益 夫 (62)	男
藍 綬	福 島 県	現 下郷町消防団 団長	星 清 美 (70)	男
藍 綬	茨 城 県	現 つくば市消防団 団長	銭 谷 幸 男 (75)	男
藍 綬	栃 木 県	現 那須町消防団 団長	鈴 木 一 一 (62)	男

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名（年齢）	性別
藍 綬	群 馬 県	現 伊勢崎市消防団 団長	金 井 健 一 (54)	男
藍 綬	群 馬 県	現 館林地区消防組合 千代田消防団 団長	鈴 木 唯 夫 (54)	男
藍 綬	埼 玉 県	現 秩父市消防団 副団長	小石川 浩 彦 (59)	男
藍 綬	埼 玉 県	現 小栗野町消防団 団長	坂 本 浩 文 (56)	男
藍 綬	千 葉 県	現 船橋市消防団 副団長	青 木 敏 人 (60)	男
藍 綬	千 葉 県	現 流山市消防団 団長	梅 澤 一 雄 (62)	男
藍 綬	千 葉 県	現 四街道市消防団 団長	河 田 政 実 (70)	男
藍 綬	千 葉 県	現 柏市消防団 副団長	長 妻 勇 (63)	男
紅 綬	千 葉 県	人命救助者	横 田 希 嘉 (24)	男
藍 綬	東 京 都	現 田園調布消防団 分団長	浅 井 正 一 (77)	男
藍 綬	東 京 都	現 小平市消防団 団長	石 井 良 勝 (54)	男
藍 綬	東 京 都	現 東京都臨港消防団 副団長	今 井 久 之 (69)	男

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名（年齢）	性別
藍 綬	東 京 都	現 蒲田消防団 分団長	岡 田 哲 也 (71)	男
藍 綬	東 京 都	現 多摩市消防団 団長	城 所 久 夫 (61)	男
藍 綬	東 京 都	現 上野消防団 団長	佐 藤 明 人 (70)	男
藍 綬	東 京 都	現 八王子市消防団 副団長	稻 田 一 男 (62)	男
藍 綬	東 京 都	現 高輪消防団 副団長	田 中 春 樹 (72)	男
藍 綬	東 京 都	現 金町消防団 副団長	中 山 克 巳 (71)	男
藍 綬	東 京 都	現 池袋消防団 副団長	西 野 浩 通 (69)	男
藍 綬	東 京 都	現 東久留米市消防団 団長	野 村 基 之 (53)	男
藍 綬	東 京 都	現 尾久消防団 副団長	波 多 智 良 (70)	男
藍 綬	東 京 都	現 深川消防団 副団長	崎 貝 裕 幸 (68)	男
藍 綬	東 京 都	元 芝消防団 分団長	濱 野 洋 介 (74)	男
藍 綬	東 京 都	現 滝野川消防団 副団長	武 藤 静 芳 (61)	男

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名（年齢）	性別
藍 綬	東 京 都	現 神田消防団 副団長	望 月 正 止 (73)	男
藍 綬	東 京 都	現 赤羽消防団 副団長	湯 原 節 子 (77)	女
藍 綬	神 奈 川 県	現 横浜市緑消防団 副分団長	岩 岡 秀 次 (69)	男
藍 綬	神 奈 川 県	現 横須賀市消防団 副団長	榎 本 馨 (61)	男
藍 綬	神 奈 川 県	現 横浜市戸塚消防団 分団長	小賀原 裕 一 (63)	男
藍 綬	神 奈 川 県	現 川崎市麻生消防団 分団長	鴨志田 昭 儀 (66)	男
藍 綬	神 奈 川 県	現 横浜市神奈川消防団 分団長	三 枝 貢 (66)	男
藍 綬	神 奈 川 県	現 横浜市金沢消防団 副団長	鈴 川 昭 一 (67)	男
藍 綬	神 奈 川 県	現 横浜市青葉消防団 団長	廣 田 豊 彦 (68)	男
藍 綬	神 奈 川 県	現 横浜市鶴見消防団 副団長	星 野 敏 彦 (63)	男
藍 綬	神 奈 川 県	現 川崎市川崎消防団 分団長	松 本 昇 次 (72)	男
藍 綬	神 奈 川 県	現 川崎市宮前消防団 分団長	吉 田 浩 之 (65)	男

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別
藍 綬	石 川 県	現 中能登町消防団 副団長	堀 内 博 (68)	男
藍 綬	福 井 県	現 嶺北消防組合坂井 消防団 副団長	野 原 徳 範 (67)	男
藍 綬	山 梨 県	現 中央市消防団 団長	中 澤 健 一 (57)	男
藍 綬	岐 阜 県	現 羽島市消防団 副団長	大 橋 秀 明 (61)	男
藍 綬	岐 阜 県	現 瑞浪市消防団 副団長	小 栗 和 寿 (62)	男
藍 綬	岐 阜 県	現 飛騨市消防団 副団長	田 口 郁 子 (66)	女
藍 綬	岐 阜 県	現 高山市消防団 副団長	寺 田 進 (63)	男
藍 綬	岐 阜 県	現 瑞浪市消防団 副団長	中 山 俊 博 (57)	男
藍 綬	静 岡 県	現 浜松市消防団 分団長	石 井 剛 司 (55)	男
藍 綬	愛 知 県	現 名古屋市八社消防 団 団長	川 口 保 (73)	男
藍 綬	愛 知 県	現 名古屋市本地丘消 防団 団長	川 端 誠一郎 (61)	男
藍 綬	愛 知 県	現 東浦町消防団 団長	鈴 木 誠 也 (58)	男

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別
藍 綬	愛 知 県	現 一宮市消防団 団長	矢 野 和 宏 (61)	男
藍 綬	三 重 県	現 東員町消防団 団長	近 藤 徳 次 (71)	男
藍 綬	三 重 県	現 鈴鹿市消防団 分団長	佐 野 治 (60)	男
藍 綬	三 重 県	現 四日市市消防団 分団長	筒 井 貫 氏 (64)	男
藍 綬	滋 賀 県	現 守山市消防団 副団長	鈴 木 佳 行 (65)	男
藍 綬	大 阪 府	現 池田市消防団 副団長	北 浦 久 司 (66)	男
藍 綬	大 阪 府	元 高槻市消防団 分団長	日下部 雄 (65)	男
藍 綬	大 阪 府	現 泉佐野市消防団 副団長	嶋 博 二 (61)	男
藍 綬	大 阪 府	現 交野市消防団 副団長	野 田 明 男 (60)	男
藍 綬	大 阪 府	現 吹田市消防団 分団長	橋 本 章 一 (69)	男
藍 綬	大 阪 府	現 摂津市消防団 副団長	山 本 和 弘 (66)	男
藍 綬	奈 良 県	現 葛城市消防団 副団長	芦 高 由 香 (60)	男

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別
藍 綬	奈 良 県	現 大和郡山市消防団 団長	中 尾 元 司 (71)	男
藍 綬	奈 良 県	現 広陵町消防団 副団長	布 家 茂 樹 (64)	男
藍 綬	奈 良 県	現 御所市消防団 副団長	細 川 勝 則 (66)	男
藍 綬	岡 山 県	現 瀬戸内市消防団 副団長	川 野 隆 (66)	男
藍 綬	福 岡 県	現 岡垣町消防団 分団長	安 藤 克 治 (57)	男
藍 綬	福 岡 県	現 直方市消防団 分団長	大 田 勝 彦 (66)	男
藍 綬	福 岡 県	現 筑紫野市消防団 副団長	大 野 正 男 (60)	男
藍 綬	福 岡 県	現 田川市消防団 分団長	川 上 和 久 (66)	男
藍 綬	福 岡 県	現 八女市消防団 副団長	栗 原 義 和 (62)	男
藍 綬	福 岡 県	現 久留米市消防団 副団長	酒 見 隆 生 (64)	男
藍 綬	福 岡 県	現 田川市消防団 分団長	秦 裕一郎 (61)	男
藍 綬	福 岡 県	現 うきは市消防団 団長	松 村 康 之 (56)	男

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別
藍 綬	福 岡 県	現 芦屋町消防団 分団長	山 内 誠 (63)	男
藍 綬	福 岡 県	現 直方市消防団 分団長	山 下 克 典 (65)	男
藍 綬	福 岡 県	現 筑紫野市消防団 副団長	劉 本 康 夫 (56)	男
藍 綬	熊 本 県	現 宇城市消防団 副団長	山 本 徹 (51)	男
藍 綬	宮 崎 県	元 延岡市消防団 副分団長	徳 丸 史 弘 (64)	男
藍 綬	鹿 児 島 県	現 鹿児島市消防団 副団長	福 富 正 一 (62)	男
黄 綬	群 馬 県	現 御吉岡商会 代表取締役	吉 岡 和 弘 (67)	男
黄 綬	東 京 都	現 東名防災設備㈱ 代表取締役	中 根 力 蔵 (78)	男
黄 綬	高 知 県	現 ㈱共栄防災設備 代表取締役	小 松 晃 一 (65)	男
黄 綬	福 島 県	現 トーアン㈱ 社長	神 事 満 三 (59)	男
黄 綬	埼 玉 県	現 日本ドライケミカ ル㈱ 取締役	遠 山 榮 一 (74)	男
黄 綬	東 京 都	現 トーハツ㈱ 社長	日 向 勇 美 (56)	男

風水害に対する備え

総務省消防庁 防災課

我が国では、毎年、台風や梅雨前線等の影響による多量の降雨があり、全国各地で洪水や土砂災害等の風水害が発生しています。

昨年は、日本付近に停滞した梅雨前線により、福岡県、佐賀県、大分県で6月28日から7月16日の総降水量が1,200ミリを超えるなど、各地で大雨となりました。この大雨により、土砂災害や河川の氾濫、低地の浸水などが発生し、道路やガス、水道等のライフライン、農業や観光業等地域の産業に大きな被害をもたらしました。



佐賀県唐津市の被害状況(唐津市より提供)

洪水

流域に降った多量の雨水が河川に流れ込み、特に堤防が決壊すると、大規模な洪水被害が発生します。

また、上流で増水した水が下流に到達するまでに時間差があるため、雨が降り止んだとしても洪水は発生します。

土砂災害

土砂災害とは、大雨や地震などが引き金となり、山や崖が崩れたり、土砂が雨などの大量の水と混ざり合って一気に流れたりする自然災害です。道路の陥落や道路への土砂の崩落、橋梁の崩落などにより多数の孤立地域が発生するおそれがあるほか、停電、断水等のライフラインへの被害や鉄道の運休等の交通障害が発生するなど、住民生活に大きな支障が生じます。

局地的な大雨による災害

近年、局地化、集中化、激甚化した降雨により多大な被害が生じています。また、都市化に伴い、中小河

川の急な増水や氾濫による床上・床下浸水等の被害、地下空間への浸水害、アンダーパス(※)への浸水による車の立ち往生等の被害が生じる事例が多く見受けられます。

※アンダーパス：交差する鉄道や他の道路などの下を通過するために掘り下げられている道路などの部分。周囲の地面よりも低くなっているため、大雨の際に雨水が集中しやすい構造となっています。

早めの避難が命を救う

風水害では、逃げ遅れにより甚大な被害が発生します。逃げ遅れが起きるのは、危険が迫っていてもなかなか実感ができず、自分は被害に遭わないだろうという思い込みに陥ってしまうからです。「まだ避難しなくても大丈夫」ではないのです。また、「近所の人が誰も避難していない」からではなく、自ら積極的に避難することが重要です。各自治体が公開しているハザードマップ等を普段から確認し、自らが、いつ、どこに避難するか、事前にルールを決めておきましょう。

最近の災害を踏まえた動向

令和3年7月3日に静岡県熱海市で発生した大規模な土石流災害では、個人情報保護条例との関係を整理した上で、積極的に氏名等公表を行い、広く情報を募った結果、本人や知人から連絡があったことで救助対象者の絞り込み、救助活動の効率化に繋がりました。

その後、個人情報を取り巻く環境が変化する中で、災害時の初動対応や被災者等へのきめ細かな支援等のために、内閣府の検討会において防災に係る個人情報の活用の方針についても再検討がなされ、令和5年3月には、「発災当初の72時間が人命救助において極めて重要な時間帯であるため、積極的な個人情報の活用を検討すべき」旨などを規定した「防災分野における個人情報の取扱いに関する指針」が公表されました。

また、気象庁では、「線状降水帯」によって引き起こされる大雨災害が多発していることを背景として、令和4年6月から、線状降水帯による大雨の可能性を半日前から伝える予測情報の発表を始めており、早めの備え、早めの避難に繋がることが期待されています。

地震に対する日常の備え

総務省消防庁 防災課

地震が発生した時、被害を最小限におさえるには、一人ひとりが適切に行動することが重要です。

そのためには、みなさんが日頃から地震について関心を持ち、自分の身の安全確保や非常持ち出し品などについて家庭内で話し合い、減災に取り組むことが大切です。

1. 家庭での防災会議

地震の時には、自分の身の安全確保を第一に考え、家族がその場に合った行動をとれるように日頃から情報を共有しておきましょう。

- 地震はいつ起こるかわかりません。時間帯によって誰が在宅しているかなど様々なケースを想定し、次のようなことを話し合っておきましょう。

- ・家の中でどこが一番安全か
- ・避難場所、避難路はどこか
- ・非常持ち出し袋はどこに置いてあるか
- ・住宅の耐震化や家具の転倒防止対策は十分か



- 緊急地震速報から揺れるまでは、わずかな時間しかありません。普段から身の安全を確保できる場所を確認しておきましょう。
- 住所、氏名、連絡先や血液型などの自分の情報を記載した避難カードを作成し、普段から携帯しましょう。
- 市町村が発行している防災ハザードマップなどを参考に、地域の危険な場所を把握しておきましょう。
- 海岸で強い揺れや弱くても長い揺れに襲われたら、すぐに安全な高台に避難するなど津波避難についても話し合っておきましょう。

2. 家族との連絡方法の確認

家族が離ればなれに被災した時のことを考えて、お互いの安否の確認手段を決めておきましょう。

- 自分の身の安全が確保できたら、次は家族の安否を確認しましょう。
- 被災地では、連絡手段に限られています。NTTの「災害用伝言ダイヤル171」や、携帯電話の「災害用伝言板」などの使い方を家族みんなで覚えておきましょう。

3. 備蓄品・非常持ち出し品を備える

地震が発生すると普段どおりの生活ができなくなることも考えられます。数日間生活できる水や食料品などの『備蓄品』を備えておきましょう。

被害によっては、避難を余議なくされることもあります。避難する時に持ち出す『非常持ち出し品』を常備しておきましょう。

- 支援物資が届くまで時間がかかる可能性があることを考慮し、最低3日間(できれば1週間分)の飲料水や食料品を備蓄しておきましょう。
- 備蓄品は、家族構成、住居や地域の特性によって必要となるものが異なります。自分や家族にとって本当に必要なものを準備しておきましょう。
- 備蓄品は、消費期限などを考慮しながら、定期的にチェックし、入れ替えましょう。
- 非常持ち出し品として、飲料水、食料品、衣類、救急用品、マスク、懐中電灯など避難生活に最低限必要なものを準備しておきましょう。
- 避難先では、トイレが不足する恐れがあります。携帯できる簡易トイレを非常持ち出し品のリストに入れておきましょう。
- 非常持ち出し品は、玄関など持ち出しやすいところに準備しておきましょう。リュックサックなどを活用すれば、両手が使えて便利です。



4. 防災活動への参加

地震に備え、避難訓練などの地域の防災活動に参加しましょう。

- 地震発生時に、初期消火や救助活動を行うには、日頃からの訓練が欠かせません。
- 9月1日は防災の日で、8月30日から9月5日は防災週間です。各地域で催される防災イベント等に積極的に参加しましょう。
- 災害時に円滑に助け合いができるように、日頃から地域の防災活動に参加して、ご近所の方と協力し合える関係を築いておきましょう。

問合せ先

消防庁国民保護・防災部防災課
TEL: 03-5253-7525

熱中症の予防についてのお知らせ

総務省消防庁 救急企画室

1. はじめに

全国では毎年、非常に多くの方が熱中症により救急搬送されています。令和5年は、5月から9月までの全国における熱中症による救急搬送人員の合計が91,467人となり、調査開始以降で過去最多となった平成30年の95,137人に迫り、過去2番目に多い搬送人員となりました。非常に厳しい暑さが長期間にわたって続き、5月から7月及び9月がそれぞれの月で過去2番目、8月が過去3番目の搬送人員となりました。

熱中症は、正しい知識を身につけることで、未然に防ぐことができます。こまめな水分補給や、適切なエアコンの使用など、一人一人が熱中症予防を心がけていただくようお願いします。

また、令和6年4月24日から、気温が特に著しく高くなることにより熱中症による重大な健康被害が生ずるおそれのある場合に「熱中症特別警戒アラート」が発表されます。熱中症特別警戒アラートの発表地域では、自発的な熱中症予防行動を積極的に行っていただくとともに、家族や周囲の方々への見守りや声かけなどを行ってください。

2. 熱中症について

(1) 熱中症のしくみ

熱中症は、温度や湿度が高い中で、体内の水分や塩分(ナトリウムなど)のバランスが崩れ、体温の調節機能が働かなくなり、立ちくらみ、頭痛、吐き気、ひどいときには、けいれんや意識をなくすなど、様々な障害をおこす症状のことをいい、最悪の場合は死に至ることがあります。

(2) 子どもの特徴

子どもは、汗をかくなどの体温調節機能が未発達のため、体に熱がこもりやすくなります。

また、体に異変が起きても気づかないことがあるため、周囲の大人が気にかける必要があります。

(3) 高齢者の特徴

高齢者は、若年者に比べ体内の水分量が少ないため、こまめに水分補給を行う必要があります。

また、加齢により、暑さや喉の渇きに対する感覚が

鈍くなるとともに、体に熱がたまりやすく、暑いときには若年者よりも循環器系への負担が大きくなるため注意が必要です。

3. 熱中症にならないために心がけること

熱中症になるのを防ぐために、以下の項目に心がけましょう。



4. 熱中症予防啓発

消防庁では、熱中症予防のための様々な予防啓発コンテンツや熱中症搬送状況等の情報をホームページやX(旧 Twitter)などで発信しています。

昨年度は、熱中症予防啓発の動画とポスターを作成しました。今年度も引き続き、全国の消防本部と連携を図りながら、予防啓発に努めていきたいと考えています。

5. おわりに

熱中症は正しい知識を身につけることで、未然に防ぐことが可能です。これから夏が近づいてきますので、熱中症の予防に御協力をお願いします。

うちの

名物団員



群馬県

桐生市消防団 団員

海川 智恵

桐生市消防団からは、海川さんを紹介します。海川智恵さんの夫、桂一さんは、桐生市消防本部の職員として勤務しています。智恵さんは、桐生市消防団の団員として精力的に消防団活動に尽力され、夫婦で桐生市の安全・安心を守っています。

海川団員は、第25回全国女性消防操法大会にもリーダー的存在で出場し活躍しました。一方、家庭に帰れば、2人の子供の母親としても家庭を支えているパワフルママさん団員です。

これからも海川団員の活躍に期待しています。

「ガンバレ、海川団員!!」「頼むぞ、パワフルママ!!」



東京都

本郷消防団 5分団 副分団長

土屋 斗志美

若くして障害福祉施設運営をされており、地域の障害をもつ方々とご家族の支えとなっています。

また、施設の会議室を分団で無償利用させて頂いており、訓練後の反省会等、コミュニケーションの場としてとても助かっております。団員同士が仲良しなのはこうした憩いの場があるからです。

ガッチリした体型は筋トレを欠かさずしているからですが、意外なところで趣味は読書です。

3人の子供のパパとしての顔はとても子煩悩で、お子様の体調不良等連絡が入ると飛んで帰宅してしまうほどです。

優しい性格で人当たりが良く、先輩、後輩からも慕われ、現在副分団長として積極的に活動に参加して団を支えています。



藤田 和孝

直方市消防団から第7分団の藤田和孝分団長を紹介します。

藤田さんは、市内で最年少の分団長ながら熱心に消防団活動に取り組んでおられます。また、普段は農業を営んでおり、直方産酒米を使用した日本酒で地域を盛り上げたいという思いから、直方産酒米100%の「MONOGATARI」というお酒を造りました。「物語」のアルファベット表記で、真ん中に「NOGATA」の文字が浮かび上がるアイデアを取り入れています。地元を愛する分団長の今後の活躍に期待しています。

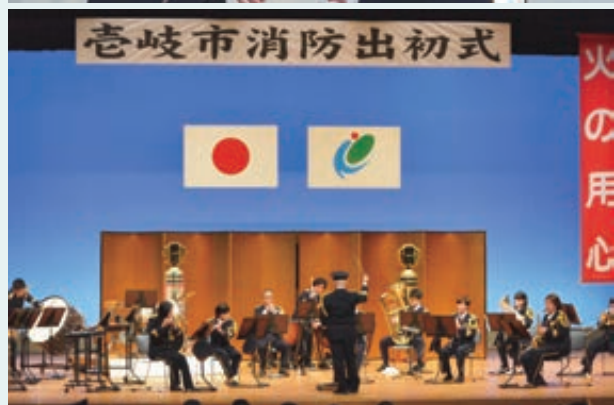


写真左(藤田和孝分団長)
写真右(部下 幸田団員)

壱岐市消防団 部長・団員

ほうき けいご ともこ
寶亀 継吾・智子

壱岐市消防団からは、壱岐市消防音楽隊(ハミングバーズ)の一員として活躍をしている寶亀夫妻を紹介します。夫妻は、平成27年10月1日に長崎県内初の消防団員主体で結成した音楽隊で、数種類の打楽器を演奏する「Per」を担当し、演奏を通じて広報活動等の活躍をしています。夫妻は大学吹奏楽部の先輩後輩で智子さんは結婚を機に福岡から壱岐へ移住してきました。また継吾さんは、ポンプ車を所有する郷ノ浦地区機動分団にも所属し、部長として災害現場での活動等様々な場面で活躍をしています。今後の活躍に期待しています。



消防団の広場

群馬県「消防団に入団して人生が広がりました」

邑楽消防団
団員

板橋 真太郎



邑楽町は群馬県の南東部に位置し関東平野に属しており、町内のほとんどが平坦な地形で、北は渡良瀬川、南は利根川に挟まれており、一級河川や沼が点在しております。

邑楽消防団は定数121名、3分団12班体制で常備消防と共に地域防災の要として火災は勿論、水害等に対応しています。

私は邑楽町で自動車板金業を営んでいます。仕事柄、地域住民と接する機会が多く消防団員への勧誘を度々受けていましたが、私の中での消防団は上下関係が厳しそうといった、消極的なイメージがあり、若い頃は「絶対に入団しない」と断り続けていました。

しかし、先輩から30歳になったら消防団へ入団するように勧められ、歳を重ねるごとに心境の変化から地域防災への関心が高まり、消防団へ入団することを決意しました。

消防団活動は仕事やプライベートとの両立が大変ですが、入団していなかったら出会えなかった繋がりや経験もたくさんあります。私は消防車に乗って巡回広報をしている時に子供たちや近所の方に声をかけてもらえる、頼りにされると実感します。若い頃は、入団したくないと思っていましたが、みんな優しい人ばかりで今では消防団が大好きです。

近年は、消防団員になりたい人が少なく団員の確保が困難だと言われています。以前の私が消防団入団に対してすごく後ろ向きだったので、気持ちがよく分かります。私は、消防団を通して幅広い世代や職種の方との繋がりが消防団員としてだけではなく人生を広げています。これからも消防団の良い所をどんどん発信しながら、邑楽町の安心安全を守るという役割を担っていきたいと思います。



2024年度 全国統一防火標語

「守りたい 未来があるから 火の用心」

令和6年7月の日本消防協会関係行事

7月21日(日)～7月28日(日) ヨーロッパ青少年消防オリンピック (イタリア)
7月25日(木)～7月26日(金) 消防育英会奨学生懇談会

編集後記

いよいよ梅雨の季節になりました。ジメジメとした空気が体にまとわりつき、気分や体調がすぐれない日々。憂鬱な気分になりますね。皆様はいかがお過ごしでしょうか。

消防庁からの呼びかけで「風水害に対する備え」にもございますが、これから秋にかけ台風や梅雨前線等の影響により多量の降雨となるため、全国各地で洪水や土砂災害等の発生が予測されます。全国で様々な水防訓練等に取り組まれ、水害を未然に防ぐ訓練が行われていますが、早めの避難が必須となります。オンラインでもハザードマップが見れるので、事前のチェックをお願いします。(T.I)

7月開催の青少年消防オリンピックへの5年ぶりの派遣が決まり、事前研修会と激励会举行(P21～)。テーブルで会食する機会もありましたが、よくしゃべってくれる子と黙々と食事する子とまちまち。みんなが元気に力を合わせて、消防競技本番で大活躍されることを、そしてお国自慢合戦で披露する今ジャパンを代表する最もホットなあの歌での「オタ芸」が大いにウケることも、大いに期待をしたいと思います。本番の様子は8月号にて詳報予定。

新会館建設関係では、今月中に慰霊碑が屋上に安置され、また、新ホールの緞帳も一足早くに取り付けるところまで来ました。いよいよです。(Y.T)

購読募集

購読を希望される方は、(公財)日本消防協会へお問い合わせください。

※ 年間購読料(送料込) 2,508円
(問合せ先) 総務部企画担当 03-6263-9496

寄稿のお願い

皆さまの消防団活動への取組み、ご意見などをもとに、より充実した有意義なものにしていきたいと考えておりますので、多数のご寄稿をお待ちしています。

Eメールでも受け付けています。 kikou@nissho.or.jp

月刊「日本消防」第七十七巻第六号
令和六年六月五日印刷
令和六年六月十日発行

編集人 田中 豊

発行所 (公財)日本消防協会

東京都港区東新橋一―十九

電話 〇三(6263)九四九六(代)

印刷所

東京都中央区銀座七―一六―二

株式会社アイネット

電話 〇三(3549)五六〇〇

消防人の 火災共済

風水雪害等共済金 補償倍率UP

300倍から750倍へ

**消防団員
消防職員
なれどなたでも
加入できます**

まさかの時お役に立ちます。

地震等災害見舞金付

掛金25口、2,500円 (56%以上の焼損)

火災共済金375万円のお支払い

1500倍補償

B型火災共済

**消防団
消防本部**

毎に皆で加入

掛金は、5口500円から5口毎、25口2,500円まで選択できます。

**落雷の損害
にも対応!!**

建物と動産の配分は常に4:1とする契約となります。

お申し込みは、所属の消防団担当から都道府県支部（消防協会）へ。

**お支払
対象**

●火災共済金

●風水雪害等共済金

●地震等災害見舞金

火災・落雷・爆発・破裂

風災・水災・雪災・車両飛び込み・航空機墜落等

地震・津波・噴火



ひまわりしているか
ひのようじん

生活協同組合 全日本消防人共済会 TEL 03-6263-9822

詳しくはホームページをご覧ください <http://www.shouboujin.or.jp/>

消防団員・消防職員だからこそ加入できる

消防個人年金

積立金には予定利率（年1.25％）、配当率が適用されます。

老後生活に向けた
計画的な財産形成
が可能です。

月払の場合、
毎月一万円（ゆうちょ
銀行は五千円）から
ご加入いただけます。

給付金の受取りは、
年金（6種類）又は
一時金からご選択
いただけます。

途中で脱退しても、
積立金（脱退一時金）
が受け取れます。

税制適格コースは
個人年金保険料控除
自由選択コースは
一般の生命保険料控除
の対象となります。

消防団員、消防職員
の退団・退職後も
継続できます。

（パンフレット・加入申込書のお取り寄せ、お問い合わせ先）

公益財団法人 日本消防協会 年金共済部

0120-658-494 平日 9:00～17:00

お問い合わせ先

（公財）日本消防協会

〒105-0021 東京都港区東新橋1-1-19
ヤクルト本社ビル内
TEL.(03)6263-9401（代表）
<https://www.nissho.or.jp>

各市町村の消防事務担当者または消防本部消防団事務担当者、都道府県消防協会